

資料編

令和4年度 事業報告

社会福祉法人 慶寿会
特別養護老人ホームカトレアホーム

目 次

I. 事業報告

1.入居者状況

- 1) 本入所・ショートステイ動向
- 2) 入退所者動向

2.職員充足状況

3.利用者健康管理状況

4.職員健康管理状況

5.各課事業報告

- 1) 事務課
- 2) 生活相談課
- 3) 介護支援専門員
- 4) 介護課
- 5) 栄養課
- 6) 医務課

II. 添付資料

- ・令和4年度年間利用状況（稼働率一覧）
- ・死亡者数・死亡原因
- ・利用者の動向（統計）
- ・医療対応一覧（往診・処置）
- ・特養入居待機者状況
- ・ボランティア受入状況・行事実施状況（中高生福祉体験学習含む）
- ・実習生受け入れ実施報告
- ・施設内研修実施報告
- ・サービス担当者会議開催状況・認定調査実施報告・認知症者の日常生活自立度
- ・事故・ヒヤリハット総括

1. 入居者利用状況

(1) 本入所

(4年度) 在住者は延べ 18,783 人 (床) であった。(稼働率 97.9% 別紙参照)

(3年度) 在住者は延べ 17,749 人 (床) であった。(稼働率 97.3% 別紙参照)

(2年度) 在住者は延べ 18,098 人 (床) であった。(稼働率 99.2% 別紙参照)

(2) ショートステイ

(4年度) 利用者は延べ 915 人 (床) であった。(稼働率 125.3% 別紙参照)

(3年度) 利用者は延べ 870 人 (床) であった。(稼働率 119.2% 別紙参照)

(2年度) 利用者は延べ 721 人 (床) であった。(稼働率 98.6% 別紙参照)

(3) 入退所

[入所]

(4年度) 7名 (在宅4名、老健1名、病院0名、他施設2名)

(3年度) 10名 (在宅4名、老健2名、病院0名、他施設4名)

(2年度) 8名 (在宅4名、老健1名、病院1名、他施設2名)

[退所]

(4年度) 6名 (死亡5名、在宅0名、他病院1名、長期入院0名) ※かつ5名、病院0名

(3年度) 13名 (死亡11名、在宅0名、他病院1名、長期入院1名) ※かつ10名、病院1名

(2年度) 7名 (死亡7名、在宅0名、他病院0名、長期入院0名) ※かつ7名、病院0名

2. 令和4年度内職員の充足状況

5.3.31

職名	旧国基準(参考)	介護保険基準(参考)		在職員数(R5)	在職員数(R4)
施設長	1	1		1	1
事務員	1	—		2 (1)	2 (1)
生活相談員	1	1		1	1
介護支援専門員	—	1		1	1
介護職員	11	3 : 1	17.3人	17 (16)	17 (15)
看護師	2	2	以上	2 (2)	2 (2)
管理栄養士	1	1		1	1
調理員	4	—		4 (2)	4 (2)
介助員等	1	—		(介護職員へ)	(介護職員へ)
医師	(1)	必要数		(3)	(3)
宿直員		—		夜勤者兼任	夜勤者兼任
技術員		—		(1)	(1)
清掃員		—		委託に変更	委託に変更
計	22 (1)	—		28 (25)	28 (24)

* () 内の数字は非常勤職員数

3. 利用者健康管理状況

利用者の日々の健康管理について、管理医（内科医）による回診が毎週木曜日に行われている。（※理事長回診は、年度途中より体調と送迎事情を考慮して、現在1回／月程度にて実施している）歯科医は毎週2回（火曜日、金曜日）に行われ、主に口腔内クリーニングと義歯調整等が実施されている。「食べられる口」の維持継続を図り、誤嚥性肺炎の防止にも大きな効果が出ている。コロナ禍であっても健康保持の必需事項として受け入れを継続した。

精神科による精神保健相談は、2回／月にて実施している。認知症等、精神的疾患への対応は極めて高い専門性が求められる分野であり、服用薬の調整等を必要に応じて行っている。皮膚科往診は、1回／月にて実施。非常に専門性が求められる分野であり、訪問往診を実施して予防・早期発見（処置）に繋げることができている。

入居利用者の日々の健康管理については、血糖値測定（※対象者に対し1回／週にて実施）、尿検査、採血検査（入所時含む）等の基本検査を実施した。「新型コロナウイルス」感染症対策には特に注力した。感染予防策「スタンダードプリコーション」（手洗い等）を基本に、職員には毎朝の検温（及び記録）、「サージカルマスク」「フェイスシールド（アイガード）」の装着を徹底した。（特に食事介助時等、飛沫予防や密の回避）外部からの面会を、家族、業者とも原則禁止し、物品搬入の際にも検温への協力を要請した。結果、現在までに施設内感染は発生せず、「インフルエンザ」「ノロウイルス」も発生しなかった。

理学療法士を受入れての生活リハビリテーションは、毎年の積み重ねにより、着実に成果が目に見えるものとなっている。廃用症候群の進行防止はもとより、理学療法の視点を介護職員が学ぶことにより、日々の介護に活かすことができている。

食生活については、NCM（nutrition-care-management）の実践に基づき、嗜好調査を定期的実施、利用者が望む味わいのある豊かな食事を提供することを目的としている。高齢者の栄養状態の維持について、十分に配慮された調理技術、方法を個別に検討している。これと連動し介護面では、食事介助技術の習得、適切な食事用食器の選定等を行っている。

毎月開催される「給食委員会」で各職種が現場の意見を集約、連携を図り検討、対応している。こうした地道な活動が治療・栄養管理（血清アルブミン値に着目）への取り組みとして効果を挙げている。医療と介護の適切なバランスを取る中で、自然な看取りを実践し、今年度退所者6名（※うち5名が死亡退所）を施設で看取った。例年になく少ない人数の結果となり、穏やかに生活され、入れ替わりの少ない安定した1年となった。

4. 職員健康管理状況

令和4年度 職員健康診断

春（令和4年4月～実施）

おざさ医院18名受診 他医療機関22名受診 合計40名受診

冬（令和4年11月～実施 ※夜勤者のみ）

おざさ医院13名受診 他医療機関1名 合計14名

令和4年度 職員インフルエンザ予防注射接種状況

冬（令和4年11月～令和5年1月）

おざさ医院38名実施

5. 各課事業報告

1) 事務課

1. 法人本部としての機能強化

理事会の意思決定に基づき、法人全体や各事業の計画的な進行管理、収支状況等の経営上の課題や、サービス提供に関わる事業運営上の課題について、起こり得るリスクを含めた具体的な情報を法人内の各事業部門から収集、分析し、その結果について考えられる対応策を含め、理事長や理事会に報告、判断を求めた。

- ①財務資料の統計、全事業所給与処理、法人会議資料作成
- ②介護報酬改訂対応
- ③求人媒体の活用（ハローワーク、ジョブオプライト、indeed、エンゲージ等）
- ④新型コロナウイルス感染症防止のための情報発信や衛生資材の調達管理
- ⑤介護保険加算取得支援（各事業所分）
- ⑥web サイト運営

2. 労務管理

- ①電子申請の定着、雇用管理改善・情報管理を徹底し、開示、発信に取り組んだ。
- ②年 1 回の定期職員面談による改善提案等を可能な範囲で反映し、安全衛生委員と共に取り組み労働災害、ハラスメント（セクハラ、パワハラ等）の防止に努めた。
- ③ワークライフバランスに配慮した職場環境（多様な働き方、長時間労働者への時間管理、業務改善）になるよう心掛けた。
- ④「人事考課制度」の運用

3. 快適な職場づくり

- ①利用者が快適に安心して過ごしていけるよう、朝の清掃、定期的な全館清掃（ワックス）、感染予防対策としての消毒の徹底、設備の保全、美観への配慮、工夫をした。
- ②備品等は幅広く職員等の意見を聴取し、効率性、経済性を意識して導入を検討、文書管理は可能な限り電子化（ペーパーレス）した。
- ③職員の健康、教養、娯楽等、心身のリフレッシュを目的とした福利厚生（福利協会や社会保険協会からの斡旋）について連絡、周知した。

2) 生活相談課

1. 年間稼働率について

令和4年度は年間稼働率99.0%で推移した。(内訳:本入所97.9%、ショート125.3%)。損益分岐稼働率として設定された(本入所・ショートステイ合計)98.5%を下回らないよう入退所運営を進めた。退所者が6名(うち5名が死亡退所、1名は医療ケアの可能な有料老人ホームへの移動)と例年になく少ない数だった。但し、入院者が多かったため、空床を短期入所者に利用していただくための調整が必要となった。(入院されると

退院の目途(見込み)が立てにくいため、いつも以上に先を見越した調整が必要だった。)全体としては穏やかに生活されている方が多く、経営上の安定を図ることができた。

2. 行事・ボランティア等の受け入れについて

新型コロナウイルスの影響を受けて、年度通じて外部ボランティアの受入れ中止。従来のボランティアグループも個々に“後継者不足”“高齢化”の課題を抱えている。次年度は感染症に関する影響が薄れることが予想されるが、従前のボランティア活動がすぐに再開するのは難しい見込みとなっている。(※活動実数は後掲の資料参照)

3. 新規入所に係る事前面接、契約説明等

新型コロナ感染症の影響で、施設内見学等は極力控え、電話相談や資料送付などで新規入所利用者への相談援助を実施した。既に申し込みをされている待機者の現状確認も電話での聴き取りが中心となった。新規入所が6名と例年に比べ少なかったため、これに関連する業務もそれほど煩雑になることがなかった。

4. 面会について(ご家族への報告、連絡、相談手法)

ご家族の面会についても「原則禁止」の方針を継続。この期間、オンライン面会等の手段も準備はしたが、希望されるご家族は少なかった。それでも日々の様子を伝えるために請求書等の書類を送付するタイミングで、本人の写真をお送りしたり、本人にメッセージを書いていただき同封するなどした。面会原則禁止の期間が長くなると、タイムリーに本人状態を把握する(伝える)ことが物理的にも難しくなるため、下半期には一定の感染防止対策に協力いただくことで面会制限の緩和を進めた。

3) 介護支援専門員

1. ケアプランについて

毎年度同様、更新間隔を最長6ヶ月(ただし、急病やそれによる入院等で大きな状態変化やプラン方針変更が生じた場合はこの限りではない)を目途として、利用者の状況に応じたケアプラン作成を、定期・臨時ケースカンファレンス、介護課による『利用者状況報告書』、日々の情報収集等を基に行った。ケアプランをどのように、日々のケアに反映させていくかについては、利用者にとって価値がある事・幸福である事に着目した内容とした他、対応の統一について、文章のみの媒体の配布に加えて、絵やイラストを用いて『絵で見る(理解しやすい)ケアプラン』の作成・掲示を引き続き行った。本入所・短期入所共に、新しく入所された利用者については人物紹介も盛り込み、状態変化が大きくプラン変更をした利用者についてはケア方針を中心に作成した。認知症の「中核症状」に焦点を当てたケア方針を盛り込むように努めている。短期入所者に関しては居宅における『居宅サービス計画書』に基づいた「個別援助計画書」を作成するため、居宅介護支援事業者へ情報提供を求めた。

2. 要介護認定(区分変更申請)について

令和3年11月受付分から前回認定調査を行った利用者については1年間の延長、前

回延長手続きを行った利用者については更新申請をして認定調査を行うという茅ヶ崎市（保険者）方針に従い対応した。他の市町村（保険者）ではホームページなどで方針を確認しつつ、明らかな状態変化により調査が必要な方については（施設への調査委託も含めて）実施、その必要性が低い方については、感染予防対策を優先して延長で対応した。認定調査（対当施設利用者；委託）については、いずれも適切な「介護の手間」を反映して介護報酬逓減への対策として、また、現場の努力をきちんと反映していくために、引き続ききめ細かく対応した。今年度の平均要介護度は4.29で目標は達成できた。特養の入所要件が要介護3以上になっている事も目標達成の要因の一つであり、調査票における特記事項内容の充実（調査員に「介護の手間」を的確に伝達）に努めた事や主治医意見書作成の際の情報提供を的確に行う事で実際の調査に反映された事が大きな要因になっていると考える。

3. 請求業務（加算管理）について

今年度も国民健康保険連合会（国保連）への請求業務の漏れ、間違い（返戻・過誤）がないように、細心の注意を払って実施した。その結果、請求金額と審査結果金額の相違が、年度を通じて概ね生じない状況を継続する事ができた。但し加算算定については、配置職員の動向により、特に「看護体制」に係るもの、また「栄養管理」に係るものにおいて、要件維持が困難な場合が生じ、算定できない（現在、算定を控えている）状態があった。利用者負担金の回収については、事業未収金を回避するために、KCS（自動代金回収システム）の利用や本人（家族）への回収に関わる諸手続きの支援（相談）を行い、回収の目途を立てて、多額の回収不能金を作らないようにした

4) 介護課

1. 中重度者（要介護度3以上）に対する対応

認知症の理解、高齢期における慢性疾患、それを基礎疾患としたターミナルケアの実践が図られ、利用者の持つ生活能力、身体能力を正しく把握し、個々に適した対応を工夫する事に依って『生活の場』としての機能を果たすことができたと考えます。職員・御利用者の相互が向き合う事が出来、適切な生活支援を提供する事が出来たと考えます。今後、多様な医療的ニーズを有する方への支援が必要と感じており、医療知識（理解）の研鑽、疾患に合わせたケアが求められるものと考えます。

2. 業務標準（『カトレア業務マニュアル』の活用）と職員教育

介護従事者としての心得・価値・判断・評価、または援助の規範（指標）として用いてきた。指導的職員は「教育担当」として、経験等で得た知識・技術を習得している職員が行い、先輩、後輩職員が共に研鑽し、共通的なケアの方向性を持つことが出来る様になって来たと思う。また、研修に関しても情勢下を踏まえ、WEB研修等に適所に参加し研鑽に努めた。

3. 「グループミーティング」の活性化・「かながわ高齢者施設研究発表」への参加

グループ（排泄・入浴・食事）体制にて、全ての職員がグループミーティングに所属し、

各テーマからミッションステートメント（重点課題）として理念、目標設定して来た。コロナ禍の状況下にあつては、会議等が十分ではなかったが、三密回避、感染防止策を取りながら職員同士の意思疎通を図りながらグループワークを実施し、業務改善・チームの結束力や他のグループワークとの連動性を図り、サービスの向上に繋がっていた。

継続的に参加している『かながわ高齢者施設研究発表大会』では、令和4年度開催は「web（ZOOM）開催」となりました。多くの施設の取組みを聴けたこと、多くの職員がその機会を得られたことは非常に刺激になった。（※今年度は自分が興味ある演題をそれぞれ見ていただく方法を採用しました。）

4. 感染症対策と「日常生活」の両立に向けて

コロナ禍の情勢でも「生活の場」としてのゆとりを失わず、楽しく、明るく毎日を過ごせるような居住空間の中心に介護職員が存在し（ご利用者一同に参集する行事の実施は難しかったが）一体感や雰囲気作りに努めた。一方で、感染症予防対策には細心の注意を払い、ご利用者の保全に繋がる環境整備を行った。その結果として、施設にて感染発生（クラスター）を出すことなく乗り切れたことは大きな成果であった。

5. 記録の活用、効率化（ICT化の礎）

高齢者介護支援記録システム《ケアカルテ（旧・ちょうじゅ）》の活用により記録が一元化され、経年蓄積されて来た利用者個人の情報を共有し、サービスに繋がられている。ICT化促進の一環としてインカムを導入（※職員同士のリアルタイム情報伝達をより円滑にするため）、互いの業務が効率的に行えるようになり、生産性の向上効果も見られ始めている。同じくベッドセンサーによる「見守り」についても定着してきている。

5) 栄養課（※12月より管理栄養士休職中につき、管理者より報告）

1. 給食管理について

- ①特養で生活されるご利用者の食事は、栄養を摂取して健康を維持することと同時に、食べる楽しみ（QOL）を味わうことが大切です。各種の栄養素をバランスよく摂取できる食品構成にして、これを充足できる献立を作成した。そして、個々人に合わせた食事量、食事形態、嗜好に配慮した提供を行った。
- ②衛生管理面では、HACCPの概念に基づき、食材の搬入～検収～保管～調理～配膳～提供迄の一連の衛生管理を行い安全な食事提供を行った。
- ③楽しみのある食事提供については、毎月の誕生会食（各フロアーで会食）、誕生日当日の個別提供食、四季の行事食、寿司バイキング（各フロアーでサーブ形式）、12月の餅つき（ついた後、各フロアー）、どんど焼き（焼いた後、各フロアー）を実施した。コロナ禍で行事が縮小する中、食行事は密集を回避して行うことができた。
- ④栄養課会議については、毎月誕生会食終了後40分程度開催。調理技術向上の勉強や業務改善の検討を行い、食事の品質及びサービス向上に繋がられるようにした。

2. 栄養管理について

- ①入所者全員に、栄養ケア・マネジメントを実施した。栄養ケア・マネジメントを実施することで、低栄養の予防や改善を通じて利用者の生活機能の維持・改善に寄与することを目的としている。
- ②給食委員会は、栄養管理に関する課題を検討する会議として毎月第一水曜日 18:30～19:30 に開催し問題の解決と栄養ケアプランに繋げた。
- ③療養食については、糖尿病食 3 名、貧血食 6 名、減塩 6g 未満食 2 名、が対象となっている。(※1 月以降は、加算算定は中断、食事はそれぞれの内容で提供実施) 結果、病状の進行はなく、安定した生活を(食生活上は)送れている。
- ④胃ろうは、3 名に実施している。

3. 栄養士実習生受け入れについて

横浜栄養専門学校 2 年生 1 名 令和 3 年 8 月 23 日(火)～9 月 2 日(金)

上記内容で受け入れを実施した。

令和 5 年度については、指導体制構築が不透明なため、年度末に依頼があった時点で「受け入れ不可」の方針をお伝えした。

6) 医務課

1. 医務課人員体制について

令和 4 年度の看護職員は常勤 1 名、非常勤 1 名でスタートを切りました。この時点で施設における最低配置基準(常勤換算 2.0 人以上)を満たしておらず、止むを得ず派遣にて看護職員の配置を実施した。その後、通常採用で常勤、非常勤看護職員を採用する機会があったが、いずれも定着せず、年度通じて人員配置に苦慮する 1 年となった。粘り強く採用活動を続けた結果、常勤看護師の採用、定着に目途が立ち、新年度を迎えた。

2. 利用者及び職員の健康管理について

利用者の健康管理が看護師の中心的業務であり、服薬管理、処置、嚥下力低下の方に対する食事介助等、介護課と連携、分担して対応してきた。退所の方(7 名)は 1 名を除いてカトレアホームでの看取りにてご逝去。それぞれに困難な状況もあったが、医療、介護他の綿密な連携により対応することができた。秋口(季節の変わり目)に入院案件が続いてしまい、稼働率の影響したが、療養の効果もあり、その後施設に戻られた。

3. 管理医、嘱託医、訪問往診医との連携

管理医、嘱託医との連携(報告、連絡、相談)は日々の利用者の健康管理に不可欠であり、状態の変化に伴い、適時、適切に回診の機会や電話等において密な連携を図ってきた。その他、各種往診医(歯科、精神科、皮膚科)には、各専門的見地から助言、指導をいただいた。早期受診の勧奨(施設内で対応が困難なケースについては、外部医療機関(総合病院等)とも連携)、「紹介状(診療情報提供書)」等の作成にもご協力いただき、速やかな受診対応に繋げた。医療的ニーズが高まる利用者を預かる施設において、この先もこうしたニーズは更に高まることが予想される。「生活の場」を標榜する特別

養護老人ホームの機能として「医療」への適応が求められる。)

4. 感染症対策におけるリーダーシップ

特に「新型コロナウイルス」については、未だ収束を迎えておらず、これからも徹底した感染予防対策を求められる。今までの経験から方法論を会得した部分については継続していくことになるが、この先必要になる対応については、医療職（看護職）のリーダーシップが必要となる。令和4年度中にはこの分野における研修などを実施し、講師としての役割を担った。未だ利用者において「感染者ゼロ」を継続できていることは、そうした地道な活動の成果である。

給食施設栄養管理報告書（社会福祉・介護保険施設用）

(1特定給食施設 2小規模特定給食施設)

令和5年 1月 26日

(宛先) 茅ヶ崎市保健所長

施設の名称	社会福祉法人慶寿会 特別養護老人ホーム カトレアホーム
所在地	茅ヶ崎市下寺尾東方 1835-2
管理者	(職名) 施設長 (氏名) 青柳雅之

茅ヶ崎市給食施設における栄養管理に関する規則第4条により、次のとおり栄養管理状況を報告します。

施設種別	1社会福祉施設 <u>2介護保険施設(1老人保健 <u>2老人福祉</u>)</u>	健康増進法第21条第1項による指定	1有 <u>2無</u>																																																	
栄養管理部門の理念・方針・目標	<u>1</u> 利用者の生活の質 (QOL) の向上を目指す <u>2</u> 生活習慣病の予防を図る 3望ましい食生活を体験する 4その他 ()																																																			
組織 (栄養管理・給食部門の 位置付け)	部門	1栄養部 2診療部 3事務部 <u>4その他 (栄養課)</u>																																																		
	責任者	(職名) 管理栄養士 (氏名) 竹内茉祐																																																		
	組織図	電話 0467-52-8711 FAX 0467-52-8712																																																		
栄養管理等について検討する 会議	<u>1有</u> 2無	【実施回数】 () 年12 () 回 【構成】 <u>1</u> 管理者 2給食担当者 <u>3</u> 管理栄養士 4栄養士 <u>5</u> 調理師又は調理員 6利用者 <u>7</u> 介護担当者 <u>8</u> その他 (生活相談員・ケアマネ) 合計6人 【目的】 <u>1</u> 給食及び栄養管理に関する課題及び問題の検討 <u>2</u> 管理者、他部門等との情報交換及び連携の場 3苦情の処理 4献立の検討 5その他 ()																																																		
運営方式	<u>1直営</u> 2委託	委託先	名称 所在地 代表者氏名 (職名) (氏名) 施設担当責任者氏名 (職名) (氏名) 電話 () 内線 【委託内容】 1献立作成 2材料購入 3調理 4配膳 5下膳 6食器洗浄 7施設外調理 8栄養指導 9その他 ()																																																	
従事者 (管理栄養士がいる施設にあつては管理栄養士、 栄養士のみがいる施設にあつては栄養士1名の氏名及び登録 番号を記入してください。)	従事者数 (人)																																																			
管理栄養士又は 栄養士の氏名	免許の種類 及び番号	勤務形態	<table border="1"> <thead> <tr> <th>管理栄養士</th> <th>栄養士</th> <th>調理師</th> <th>調理員</th> <th>給食事務</th> <th>その他</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>竹内茉祐</td> <td><u>1</u> 管理栄養士 (第206461号) 2 栄養士 (第) 号</td> <td><u>1</u> 専任 2 兼任</td> <td>施設側 常勤 1 非常勤 委託側 常勤 非常勤</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>5 2</td> </tr> </tbody> </table>	管理栄養士	栄養士	調理師	調理員	給食事務	その他	合計	竹内茉祐	<u>1</u> 管理栄養士 (第206461号) 2 栄養士 (第) 号	<u>1</u> 専任 2 兼任	施設側 常勤 1 非常勤 委託側 常勤 非常勤	4	2	5 2																																			
管理栄養士	栄養士	調理師	調理員	給食事務	その他	合計																																														
竹内茉祐	<u>1</u> 管理栄養士 (第206461号) 2 栄養士 (第) 号	<u>1</u> 専任 2 兼任	施設側 常勤 1 非常勤 委託側 常勤 非常勤	4	2	5 2																																														
従事者の研修会	<u>1有</u> 2無	【実施回数】 (2) 回 (該当年の総数) 主な研修内容: (・食中毒についてweb ・免疫力アップと栄養についてweb)																																																		
食数 (1日当たり平均食数) (食)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定員</th> <th>朝食</th> <th>昼食</th> <th>夕食</th> <th>その他(補食)</th> <th>合計</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入所者</td> <td>50</td> <td>49</td> <td>49</td> <td>18</td> <td>165</td> <td></td> </tr> <tr> <td>短期入所者</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td>6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>デイサービス</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>配食サービス</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			定員	朝食	昼食	夕食	その他(補食)	合計	備考	入所者	50	49	49	18	165		短期入所者	2	2	2		6		デイサービス							配食サービス							その他							合計						
定員	朝食	昼食	夕食	その他(補食)	合計	備考																																														
入所者	50	49	49	18	165																																															
短期入所者	2	2	2		6																																															
デイサービス																																																				
配食サービス																																																				
その他																																																				
合計																																																				
対象者 (利用者) の把握 (令和4年12月現在)	身体活動レベル	性別	59~75歳(人)	76~85歳(人)	86~95歳(人)	96~101歳(人)	合計																																													
	低い	男	3	3	2		8																																													
		女	3	12	15	11	41																																													
	普通	男																																																		
		女																																																		
	高い	男																																																		
女																																																				
その他	男																																																			
合計	女																																																			
合計			6人	15人	17人	11人	49人																																													

(裏)

身体状況の把握		【身長の把握】	<input checked="" type="radio"/> 1有 2無	【体重の把握】	<input checked="" type="radio"/> 1有 2無		
		【体格指数 (BMI)】	体重 (kg) ÷ 身長 (m)²	25以上 (肥満) 8%・18.5未満 (やせ) 47%			
		【疾病状況】1脂質異常症 (22%) 2高血圧症 (45%) 3糖尿病 (6%) 4貧血 (8%) 5低アルブミン血症 (12%) 6その他 (: %)					
栄養補給法 (1日当たり平均人数)		経口栄養法	46人	約束手事せん	<input checked="" type="radio"/> 1有 2無		
		経腸栄養法	3人		<input checked="" type="radio"/> 1病態別 2成分栄養別		
食種 (1日当たり平均人数)		1常食	4人	療養食加算 対象食	加算対象食	人数	
		2軟食	32人		糖尿病	3人	
		3流動食	0人		貧血食	4人	
		4その他 (ペースト・ゼリー食)	10人		減塩 6g 以下	2人	
給食の利用率		98 %	(49人/50人)				
療養食加算等		<input checked="" type="radio"/> 1療養食加算 2経口移行加算 3経口維持加算 (I・II) 4栄養マネジメント強化加算 5その他 ()					
摂取量の調査 <input checked="" type="radio"/> 1有 2無		【実施回数】 (1095) 回 【方法】 1残菜の調査 <input checked="" type="radio"/> 2摂取量の調査 3その他 ()					
給食量の調整		主食の量	<input checked="" type="radio"/> 1有 (5種類) 2無	副食 (主菜・副菜) の量	<input checked="" type="radio"/> 1有 (5種類) 2無		
平均提供食品量・平均栄養量 1人1日 (1朝食 2昼食 3夕食) 当たり							
平均提供食品量	食品群		量	栄養素名	目標栄養量	提供栄養量	推定摂取量
	穀類	ごはん	100 g	エネルギー (kcal)	1420	1455	1425
		パン	50 g	たんぱく質 (g)	60	60.8	59.8
	いも及びでんぷん類	麺	150 g	脂質 (g)	35	36	35.8
			49 g	カルシウム (mg)	600	599	587
	砂糖及び甘味類		10 g	鉄 (mg)	8.0	8.3	8.1
		豆類	53 g	ビタミンA (βカロル当量) (μg)	550	510	504
	野菜類	緑黄色野菜	106 g	ビタミンB ₁ (mg)	0.8	0.76	0.73
		その他の野菜	202 g	ビタミンB ₂ (mg)	0.9	1.0	0.98
		野菜漬物類	12 g	ビタミンC (mg)	100	97	95
	果実類	45 g	食物繊維 (g)	13.0	12.5	12.2	
	藻類	3 g	塩分 (食塩相当量) (g)	8.0未満	7.9	7.8	
	魚介類	65 g	炭水化物エネルギー比 (%)	60.9	60.9	60.9	
	肉類	46 g	たんぱく質エネルギー比 (%)	16.9	16.7	16.7	
	卵類	32 g	脂質エネルギー比 (%)	22.2	22.4	22.4	
	乳類	218 g	*				
	油脂類	7 g	*				
	菓子類	22 g	*				
調理加工食品類	17 g	*の欄は、記載されている項目以外で算出している栄養素があれば記入してください。					
食材料費		1人 (11食 22食 <input checked="" type="radio"/> 31日) 当たり (792) 円					
作業指示書 <input checked="" type="radio"/> 1有 2無		1献立名 2材料名 3純使用量 (1人分) 4純使用量 (食数分) 5作業指示のポイント 6その他 ()					
栄養教育 <input checked="" type="radio"/> 1有 2無		入所者	通所者	【栄養教育の内容】 ・食事をしっかり食べて感染症に罹らないようにしよう。 ・食事を美味しく食べるために気を付けること ・旬の食材を知り、料理を考えてみよう。	給食日誌	<input checked="" type="radio"/> 1有 2無	
		個別指導	13人		栄養成分表示	<input checked="" type="radio"/> 1有 2無	
		集団指導	回 (感染症予防の為中止) 人			<input checked="" type="radio"/> 1エネルギー <input checked="" type="radio"/> 2たんぱく質 <input checked="" type="radio"/> 3脂質 <input checked="" type="radio"/> 4食塩相当量 5その他 ()	
テーマ献立の導入 <input checked="" type="radio"/> 1有 2無		<input checked="" type="radio"/> 1疾病に配慮した献立 <input checked="" type="radio"/> 2行事食 3その他 ()		非常食糧等の備蓄 <input checked="" type="radio"/> 1有 2無	(52) 人分を (3) 日分 【献立表】 <input checked="" type="radio"/> 1有 2無 【保管場所】 <input checked="" type="radio"/> 1厨房内 2防災保管庫 3その他 ()		
報告担当者		部門名 栄養課 職名 管理栄養士 氏名 竹内茉祐 所在地 (施設の所在地と異なる場合に記入してください。)					

備考 それぞれ該当するところに○印、数字等を記入してください。

2022 (令和4) 年10月改訂版

令和4年度 年間利用状況

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
本入所	1430	1494	1469	1549	1545	1470	1507	1454	1487	1530	1383	1550	17868	1489
ショートステイ	84	83	79	63	65	90	85	98	102	58	55	53	915	76
合計	1514	1577	1548	1612	1610	1560	1592	1552	1589	1588	1438	1603	18783	1565
総ベッド数	1560	1612	1560	1612	1612	1560	1612	1560	1612	1612	1456	1612	18980	1582

稼働率 (%)

本入所	95.3	96.4	97.9	99.9	99.7	98.0	97.2	96.9	95.9	98.7	98.8	100.0		97.9
ショートステイ	140.0	133.9	131.7	101.6	104.8	150.0	137.1	163.3	164.5	93.5	98.2	85.5		125.3
全体	97.1	97.8	99.2	100.0	99.9	100.0	98.8	99.5	98.6	98.5	98.8	99.4		99.0

令和3年度

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
本入所	1493	1540	1456	1434	1436	1432	1507	1449	1538	1532	1387	1545	17749	1479
ショートステイ	64	58	74	76	90	83	94	73	61	64	66	67	870	73
合計	1557	1598	1530	1510	1526	1515	1601	1522	1599	1596	1453	1612	18619	1552
総ベッド数	1560	1612	1560	1612	1612	1560	1612	1560	1612	1612	1456	1612	18980	1582

稼働率 (%)

本入所	99.5	99.4	97.1	92.5	92.6	95.5	97.2	96.6	99.2	98.8	99.1	99.7		97.3
ショートステイ	106.7	93.5	123.3	122.6	145.2	138.3	151.6	121.7	98.4	103.2	117.9	108.1		119.2
全体	99.8	99.1	98.1	93.7	94.7	97.1	99.3	97.6	99.2	99.0	99.8	100.0		98.1

死亡者数・死亡原因

令和4年度(R4.4.1~R5.3.31)

死因と退所原因(本入所名)

	日付	死因・退所原因	性別	年齢	場所
1	R4.4.6.	老衰	女性	94歳	カトリアホーム
2	R4.8.29	老衰	女性	95歳	カトリアホーム
3	R4.10.21	悪性腫瘍	女性	88歳	カトリアホーム
4	R4.11.24	老衰	女性	88歳	カトリアホーム
5	R5.2.10	悪性腫瘍	女性	87歳	カトリアホーム

入所利用者の動向(統計)(令和5年3月31日現在)

1. 保険者

保険者	男性	女性	合計(人)	保険者	男性	女性	合計(人)
茅ヶ崎市	6	35	40	大和市	1	0	1
寒川町	0	4	4	座間市	0	1	1
藤沢市	1	1	2	横浜市(旭区)	0	1	1
合計	8	42	50				

2. 年齢

	男性	女性	合計(人)		男性	女性	合計(人)
65歳未満	0	2	2	90歳~90歳	1	16	17
65歳~79歳	5	5	10	100歳以上	0	1	1
80歳~89歳	2	18	20				
合計(平均)	8	42	50(86.8)				

最高年齢：男性 94歳 女性 100歳 最低年齢：男性 65歳 女性 59歳

3. 要介護度

	男性	女性	合計(人)
要介護度1	0	0	0
要介護度2	1	0	1
要介護度3	1	6	7
要介護度4	3	14	17
要介護度5	3	22	25
合計(平均)	8	42	50(4.32)

4. 在籍日数

	平均在籍日数	最長在籍日数	全体平均
男性	1688日(4.63年)	4928日(13.5年)	2044日(5.6年)
女性	2117日(5.8年)	4833日(13.3年)	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	回数	7	8	9	9	8	9	7	8	5	6	6
	人数	333	386	443	450	383	392	432	382	245	306	300
精神科	回数	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	2
	人数	8	11	20	20	20	20	10	22	11	11	22
皮膚科	回数	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1
	人数	6	5	9	4	4	7	0	7	4	6	6
訪問歯科	回数	8	6	8	8	7	8	8	8	8	8	8
	人数	111	89	103	105	99	99	98	104	99	99	109
合計	回数	18	17	20	20	18	19	18	19	15	16	17
	人数	458	491	575	579	506	518	540	507	359	422	437

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
酸素吸入	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
吸引	回数	3	1	1	2	7	0	2	2	1	1	2
経管栄養(胃瘻)	回数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
皮下点滴	回数	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
静脈点滴	回数	0	0	1	0	3	4	0	2	1	0	0
筋肉注射	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
褥創処置	回数	0	0	0	0	13	35	32	28	14	23	29
ハルカテール	回数	1	1	1	2	1	2	3	3	3	3	3
下剤投与	回数	34	11	32	36	31	23	31	31	37	37	34
摘便	回数	11	6	8	5	9	8	6	1	6	0	0
血糖測定	回数	0	0	0	0	5	4	5	4	4	2	5
採血	回数	1	7	1	41	1	1	21	3	2	8	5

特養待機者調査（令和5年3月31日現在）

（男性）

保険者	要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	合計（人）
茅ヶ崎市	1	0	12	13	11	37
寒川町	0	0	2	5	1	8
藤沢市	0	0	2	2	5	9
平塚市	0	0	1	0	1	2
県外	0	0	1	0	1	2
合計	1	0	18	20	19	58

（女性）

保険者	要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5	合計（人）
茅ヶ崎市	0	0	21	19	6	46
寒川町	1	0	0	1	1	3
藤沢市	0	0	1	1	1	3
平塚市	0	0	0	1	1	2
横浜市	0	0	1	0	0	1
川崎市	0	0	0	0	1	1
湯河原町	0	0	0	0	1	1
県外	0	0	1	1	2	4
合計	1	0	24	23	14	61

県外：岐阜県1名、静岡県2名、大阪府1名、東京都2名

特養待機者の傾向と分析

「要介護度3」以上の要件を満たしていれば『入所申込書』の提出を受け付けており、受付実数は上記の通り男性、女性合計で100枚（人）超となっている。但し、実際は他施設との重複申し込みや状態像的に「受け入れ実現可能性」が低いと判断されるケースも含まれている。年に2回実施の県による“名寄せ”による待機者調査によると、少なくとも1施設当たりの待機者数は35名（男女合計）程度で推移しており、実際の『入所申込書』枚数より相当低いことが窺われる。状態が施設の受け入れ状況に合致していれば、申し込みから入所まで数か月で入れることもあれば、長期に亘って声が掛からない場合もある。カトレアホームで預かっている待機者から新規入所者を検討する場合にも、概ね申し込みから1年～2年程度の方が入所に至っており、それ以上の長期待機者は事実上、受け入れが困難かつ実待機者数として考慮し辛い状況となっている。

令和4年度 ボランティア活動（受け入れ状況）

内容	来園延べ人数	活動日	実施回数	備考
香川教会レク	0	第1金曜日	0	歌、体操
尺八笛なかまえぼし	0	第4金曜日奇数月	0	尺八演奏
介護サービス相談員	9	不定期（2回/月）	3	傾聴
第三者委員	0	不定期	0	傾聴
散髪	14	不定期（1回/月）	14	散髪
ヒューマンファミリー	0	1月以外の奇数月	0	清掃
鶴嶺高校PTA	20	7月、11月	2	屋外清掃
香川婦人会	0	8月	0	盆踊り
あゆみの会	0	12月	0	X'mas会
ショッピング	0	第2金曜日	0	社協ボラ
福祉体験学習	0	7月、10月	0	円蔵中学校
福祉慰問(茶道・合唱・JRC)	0	8月	0	鶴嶺高校

行事実施状況（月間）

4月	花まつり（甘茶）、家族会（中止）
5月	菖蒲湯、端午の節句（柏餅）
6月	衣類販売会（中止）
7月	湘南平塚七夕ドライブ（中止）、かながわ高齢者研究発表（web）
8月	追善盆供養、迎え火・送り火 納涼祭・盆踊り・下寺尾神輿（中止）
9月	流し素麺(中止)、敬老祝賀会、十五夜
10月	秋の遠足(中止) 十三夜お団子作り
11月	動画バーチャル旅行、コーヒーを囲む会
12月	クリスマス会中止（香川レク、あゆみの会、職員）、ゆず湯、餅つき
1月	新年賀詞交歓会、梯子乗り、七草粥、どんど焼き（団子作り）
2月	節分（豆まき）、衣類販売会（中止）
3月	ひな祭り

（毎月実施）

誕生会・会食、散髪

香川レク（第1金曜日）、ショッピング（第2金曜日）、睦会給食連絡会

※「新型コロナウイルス感染症」対策として当面の間、外部VO受入中止、自粛行事あり

学校名	取得資格	区分	介	H	他	実習期間	日数	受入人数	備考
神奈川社会福祉専門学校	介護福祉士	Ⅱ	2			5/9~6/8	23	0	受け入れなし
神奈川社会福祉専門学校	介護福祉士	Ⅲ	2			8/31~9/30	23	2	三嶋琴乃 松山彰吾
湘南平塚看護専門学校	看護師	老年看護学習Ⅰ				10/24~10/25	2	5	
湘南平塚看護専門学校	看護師	老年看護学習Ⅰ				10/27~10/28	2	5	
湘南平塚看護専門学校	看護師	老年看護学習Ⅰ				10/31~11/1	2	5	
湘南平塚看護専門学校	看護師	老年看護学習Ⅰ				11/2~11/4	2	5	
合計			4	0	0			22	

令和4年度 カトレアホーム 施設内研修

日時	研修テーマ	講師（担当職員）
4月14日（木）	高齢者福祉施設等における基本的な感染対策	管理栄養士 竹内 茉祐
5月12日（木）	対人援助職の基本的態度について	理事長 小笹 慶資
6月9日（木）	衛生管理者の基礎知識	施設長 青柳 雅之
7月14日（木）	かながわ高齢者福祉研究発表大会 発表動画視聴	施設長 青柳 雅之
8月11日（木）	～事故防止対策②～事故防止活動の基礎知識～ 神奈川高齢協制作動画を視聴	施設長 青柳 雅之
9月8日（木）	「第57回関東ブロック高齢者研究大会」（ZOOM視聴） 松林ケアセンター・清水主任が神奈川県代表として登壇	施設長 青柳 雅之
10月13日（木）	「認知症ケア研修（認知症ケアの倫理と理念・実践）」	施設長 青柳 雅之
11月10日（木）	「陰部洗浄」の手順について 清潔保持（5S+S）・疾病予防	介護職員 細川 清人
12月8日（木）	「感染症対策①（インフルエンザ）」 神奈川高齢協制作動画を視聴	施設長 青柳 雅之
1月19日（木）	法令遵守及び倫理に関する研修	施設長 青柳 雅之
2月9日（木）	「科学的介護」の落とし穴（コラム） 令和5年2月7日（火）朝日新聞「オピニオン&フォーラム」を読んで、「介護の質」向上に大切なものは何かを考える	施設長 青柳 雅之
3月9日（木）	自分の“強み”はどこですか？	施設長 青柳 雅之

令和4年度 カトレアホーム 施設外研修

日時	研修テーマ	主催	参加職員
4月20日(水)	介護職の為の認知症の基礎知識 Web	かながわ福祉サービス振興会	介護職員 諏訪田 知子
4月21日(木)	介護の本質～なぜあなたは介護のするのか～オンラインセミナー	白十字株式会社	介護課職員 細川 清人
5月25日(水)	高齢者に多い皮膚疾患と褥瘡・フットケア	神奈川県看護協会	医務課看護師 中村 直子
6月6日(月)	職場研修担当者研修	中央福祉学院	副施設長 石川 絵理
6月7日(火)	経営者研修会		施設長 青柳 雅之
6月8日(水)	ロボットフォーラム		施設長 青柳 雅之
6月9日(木)	介護施設における感染管理	神奈川県看護協会	医務課職員 中村 直子
6月9日(木)	介護施設で働く看護師のスキル	神奈川県看護協会	医務課職員 中村 直子
6月10日(金)	第一回施設長・管理者研修会	一社) 神奈川県高齢者福祉施設協議会	施設長 青柳 雅之
6月20日(月)	令和4年度特定給食施設等全体講習会	茅ヶ崎市保健所	栄養課職員 佐藤 強
6月21日(火)	令和4年度特定給食施設等全体講習会	茅ヶ崎市保健所	栄養課主任 竹内 茉祐
6月28日(火)	コロナウイルス対策	老人福祉施設協議会	施設長 青柳 雅之
6月29日(水)	脱水症と熱中症について	神奈川県医師会在宅トレーニングセンター	介護課職員 篠原 由紀
7月15日(金)	口腔ケア～排泄ケアの新たな方法	株式会社モルテン	介護課職員 石井万吏枝
7月25日(月)	令和4年度神奈川県版ファーストステップ研修	一社) 神奈川県高齢者福祉施設協議会	介護課職員 矢部 梓
7月27日(水)	WOCナースが伝えたい自宅での褥瘡ケア	神奈川県在宅医療トレーニングセンター	介護課職員 城田 悠佑
8月4日(木) 6日(土) 10日(水) 18日(木) 20日(土) 23日(火) 25日(木) 26日(金) 30日(火)	かながわ介護職員初任者研修	一社) 神奈川県高齢者福祉施設協議会	介護課職員 石井万吏枝
8月31日(水)	令和4年度地域包括支援センター職員等養成研修(管理者向け)	介護支援専門員協会	施設長 青柳 雅之
9月8日(火) 21日(水) 27日(火)	介護職員実務者研修	一社) 神奈川県高齢者福祉施設協議会	介護課職員 諏訪田知子
9月17日(土)	令和4年度神奈川県版ファーストステップ研修	一社) 神奈川県高齢者福祉施設協議会	介護課職員 矢部 梓

9月20日(火) 17日(土) 22日(木) 24日(土) 27日(火) 29日(木)	かながわ介護職員初任者研修	一社)神奈川県高齢者 福祉施設協議会	介護課職員	石井万吏枝
10月1日(土) 3日(月) 8日(土) 12日(水)	かながわ介護職員初任者研修	一社)神奈川県高齢者 福祉施設協議会	介護課職員	石井万吏枝
10月1日(土) 3日(月) 8日(土) 12日(水)	かながわ介護職員初任者研修	一社)神奈川県高齢者 福祉施設協議会	介護課職員	永嶋麻弓美
10月6日(木)	令和4年度食生活支援担当者研修会	茅ヶ崎保健所	栄養課主任	竹内 茉祐
10月5日(水) 12日(水) 22日(土)	令和4年度神奈川県版ファーストステップ®研修	一社)神奈川県高齢者 福祉施設協議会	介護課職員	矢部 梓
11月2日(水) 15日(火)	令和4年度神奈川県版ファーストステップ®研修	一社)神奈川県高齢者 福祉施設協議会	介護課職員	矢部 梓
12月1日(木) 8日(木) 14日(水) 22日(木)	かながわ介護職員初任者研修	一社)神奈川県高齢者 福祉施設協議会	介護課職員	石井万吏枝
12月2日(金)	介護施設等防災リーダー養成研修	一社)中部産業連盟	事務長	土江 泰介
12月5日(火)	介護助手研修	一社)神奈川県高齢者 福祉施設協議会	介護課介護助手 介護課介護助手	一之瀬和江 鯉谷婦美子
12月6日(火)	令和4年度神奈川県版ファーストステップ®研修	一社)神奈川県高齢者 福祉施設協議会	介護課職員	矢部 梓
12月8日(木)	令和4年度神奈川県高齢者福祉施設等感 染予防リーダー育成研修	神奈川県立保健福祉大 学実践教育センター		
12月21日(水) 22日(木)	介護職員実務者研修(喀痰吸引)	一社)神奈川県高齢者 福祉施設協議会	介護課職員	金子 直道
1月19日(木)	令和4年度神奈川県版ファーストステップ®研修	一社)神奈川県高齢者 福祉施設協議会	介護課職員	矢部 梓
2月4日(土)	床ずれ対策の基礎を学び、スキルアップに つなげよう!	モルテン	介護課職員	栗原 裕司
2月10日(金)	精神科疾患の基礎知識Ⅱ パートナリィ障害・発 達障害	神奈川県医師会在 宅トレーニングセンター	医務課看護師	今田 京子
2月20日(月)	令和4年度特定給食施設種別講習会 日本褥瘡学会のガイドラインに基づく褥瘡ケ アと栄養管理	茅ヶ崎市保健所	栄養課主任	鈴木 将

2月21日(火)	令和4年度神奈川県版ファーストステップ®研修	一社)神奈川県高齢者福祉施設協議会	介護課職員	矢部 梓
2月24日(金)	うつ病と女性のこころ	神奈川県精神保健福祉センター	施設長	青柳 雅之
3月7日(火)	タニタ創業者が語る事業承継	神奈川県社会福祉協議会 経営者部会	施設長	青柳 雅之
3月13日(月) 3月15日(水) 3月10日(金)	令和4年度神奈川県高齢者権利擁護・身体拘束廃止推進研修	神奈川県 委託 一社)神奈川県高齢者福祉施設協議会	介護課課長 介護課主任 介護課職員	大島 義明 新倉 恵以 城田 悠佑
3月14日(火) 22日(水)	令和4年度神奈川県版ファーストステップ®研修	一社)神奈川県高齢者福祉施設協議会	介護課職員	矢部 梓
3月29日(水)	第21回かながわ高齢者福祉研究大会 研修発表事前説明会・プレゼンテーション研修会	神奈川県社会福祉協議会 福祉サービス推進部	介護課職員	細川 清人

サービス担当者会議の件数

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サービス担当者会議	10	13	10	6	12	6	12	12	10	5	12	6	114
(内、家族・本人参加)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	10	13	10	6	12	6	12	12	10	5	12	6	114

認定調査件数

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	3	5	4	6	3	2	0	0	0	3	2	29	

認知症高齢者の日常生活自立度（令和5年3月31日現在）

自立	0	
I	1	何らかの認知症を有するが、家庭内・社会的にはほぼ自立
II a	2	誰かが注意していれば自立。道に迷う・買物・事務・金銭管理等のミスが目立つ
II b	12	服薬管理ができない、電話の応対や訪問者との対話等一人で留守番ができない等
III a	26	日を中心に着替え、食事、排便、排尿が上手に出来ずに時間が掛かる。異食、収集、徘徊、失禁、大声、奇声、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
III b	2	夜間を中心にIII aの症状が見られる
IV	7	日常生活に支障を来すような症状、行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする
M	0	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする
	50	

令和4年度 リスクマネジメント総括

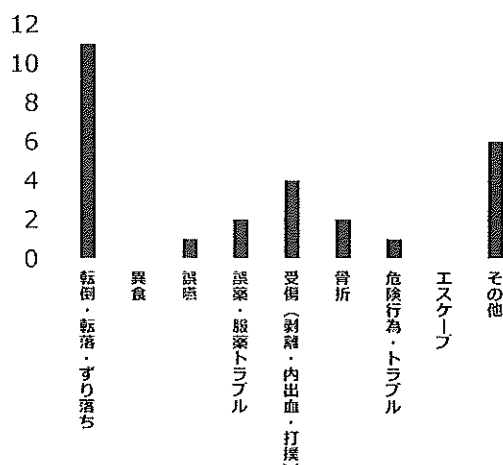
◎対象期間 : 令和4年4月1日～令和5年3月31日

◎事故ヒヤリハット報告総件数: 28件(提出及び報告件数)

◎内訳

	R04年度	R03年度
転倒・転落・ずり落ち(※1)	11	10
異食	0	0
誤嚥	1	1
誤薬・服薬トラブル(※2)	2	14
受傷(剥離・内出血・打撲)	4	9
骨折	2	3
危険行為・トラブル	1	1
エスケープ	0	1
その他(※3)	7	6
合計	28	45

事故内容別 内訳



※1 一部未遂も含む

※2 誤薬・服薬トラブルに関しては落薬、配薬ミス、点滴漏れなどの事象も含む

※3 その他の内容 義歯の紛失(及び未遂)、バルーンカテーテルルート破損、職員間の引継ぎミス(EX:シャワー浴対応の利用者を浴槽に入浴するetc...)、車椅子移動時(利用者乗車中)のアームレストの閉め忘れ、入浴中の状態変化など

◎総括

令和4年度の事故件数は上記28件であった。転倒・転落・ずり落ちの報告は前年度に比べて1件増加、異食の報告は今年度0件、受傷(剥離・内出血・打撲)の報告及び誤薬・服薬トラブル(落薬・配薬ミス)はそれぞれ前年度減少傾向であった。その他の原因としては義歯の紛失事故が2件挙げたが、内1件は検索するも所在不明のまま新たに作成、もう1件は残飯と共に厨房職員により発見・未遂に留まった。

一方、骨折等の大きな事例は2件であり、いずれも真の原因は不明だが、利用者の表情及び部位の異常により受診した結果骨折が判明した。(いずれもOPEはせず保存治療となった)

こちらには記載していないが、日中の時間帯(9時～18時台)の報告が16件、夜勤帯(18時～9時台)の報告が10件、実際の発症時刻不明が1件と概ね日中の利用者が概ね活動される時間帯に集中していた。(発生時刻不明のケースについては骨折のケースでどの段階で発症したか、不明であった。)

この一年を振り返り、件数は前年度に比べ減少したが、概ね無事故120日～180日(約3か月～6か月の間)の時点で大きな事象が発生している傾向があり、「無事故100日目以降は特に注視すべき期間」として、注意喚起を啓発していくことで事故ヒヤリの重要性を意識していく取り組みを実施した。(3月31日現在で無事故記録142日間である。)

令和4年度 事業報告

社会福祉法人 慶寿会
居宅介護支援センター松林
松林ケアセンター

目 次

I. 事業報告

- 1 居宅介護支援事業
- 2 通所介護・指定第一号通所事業
- 3 訪問介護・指定第一号訪問事業
- 4 茅ヶ崎市委託事業
 - ① 茅ヶ崎市松林ケアセンターの管理運営
 - ② 高齢者住宅援助員派遣事業
 - ③ 転倒予防教室
 - ④ 市営松林住宅管理運営業務
- 5 実習生受け入れ
- 6 ボランティア活動
- 7 松林ケアセンター室内の清掃営繕業務委託事業

II. 組織運営

- 1 会議
- 2 職員研修
- 3 地域交流活動
- 4 その他

I・事業報告

1.【居宅介護支援事業】居宅介護支援事業・介護予防ケアマネジメント事業

令和4年度事業計画に対して事業状況は下記の通りである。

【重点報告】

- ・コロナ禍で、様々なコロナにかかわる対応に追われた1年であった。居宅介護支援事業所職員で新型コロナウイルス感染者を出すことなく運営できた。
- ・年度初めに新人ケアマネジャーを採用。5名の体制で令和5年2月末まで運営。新規利用者受託増をしたが、年度末に退職（年齢、健康などの理由）となった。退職した者が担当していた利用者数を残る職員ですべて担当することで稼働率、利益を維持した。
- ・利用者の状況にあっては、要支援認定から要介護認定に重度化する方が多くなった。その為、施設入所または入所希望となるケースが多くあった。
- ・令和5年4月末で、介護ソフト使用ライセンス期限を迎えるにあたり、事務所内にサーバー設置の運用から、災害時や遠隔運用などしやすいようオンラインプラットフォーム型に切り替え対応を開始した。サーバーメンテナンス費用なども抑制できるようになった。

【報告】

- ・特定事業所加算算定を行い、特定事業所加算や各種加算を取得した。
- ・外部には事業所管理者が、（一社）茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会 介護支援専門員部会 部長として下記活動も実施。活動を通じ当事業所、当法人の存在意義を地域で高め、行政各課をはじめ、医師会・歯科医師会・薬剤師会・多関係団体等と深く交流できた。
- ・神奈川県介護支援専門員協会地域連絡団体会長会議出席、茅ヶ崎市在宅医療介護連携推進事業委員として、多職種連携研修委員会出席、茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第一層協議体委員、茅ヶ崎市寒川町高齢者虐待防止ネットワーク連絡協議会委員として活動した。
- ・年度を通じ、様々な内容で開催された研修、オンラインセミナーに参加し研鑽した。

居宅介護支援計画作成状況

要介護者の人数

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4年度	109	111	117	119	120	125	129	131	131	135	136	136	1496
3年度	114	126	119	123	118	120	116	118	117	111	112	113	1407

要支援者の人数

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4年度	10	9	10	10	11	13	12	12	13	13	14	13	140
3年度	24	23	23	22	21	22	22	23	23	22	23	22	241

居宅介護支援 要介護度別 延べ人数

単位：人

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4年度	18	31	638	323	240	163	132	1545
3年度	95	174	687	364	231	138	165	1854

2. 【通所介護・指定第一号通所事業】

令和4年度事業計画に対して事業状況は下記の通りである。

【重点報告】

- ・新型コロナウイルス感染症の第7波、第8波による影響が利用者、職員にあり計4日の事業自粛を行った。年度を通じコロナによる通所利用控え、濃厚接触者などの理由も稼働率低下の要因となった。
- ・利用者数、利用率に比べ、職員数が多く在籍している状態であったが、退職者が数名あり、新規採用を控えたことから年度後半には過不足ない数に近づいた。
- ・年度通じ、通所利用者数の曜日別推移や要介護、要支援者数を本部と共有し年度末に平均25、0名の利用者数になった。
- ・厚生労働省令和4年度 老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）
「リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の一体的取組に関する調査研究事業」施設及び通所系サービスにおけるリハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の一体的取組に関するインタビュー調査へ協力。通所介護では珍しく管理栄養士、歯科衛生士在籍事業所で長年の連携した取り組みを評価いただいた。
- ・令和6年度より義務化の無資格の介護職員に対する、認知症介護基礎研修を先行して受講した。
- ・介護福祉士合格2名、実務者研修修了1名、認知症介護実践者研修修了2名が新たに取得した。
- ・栄養改善加算と栄養スクリーニング加算の過去のデータを収集し、令和2年度にかながわ高齢者福祉研究大会にて発表した演題が、「関東ブロック大会」に推薦され、出場した。（オンライン開催）
- ・第15回呼吸ケア誤嚥ケア学会内「嚥下食アワード」にて、井上賞（学会大会長）を受賞した。

通所介護 延べ人数													単位：人
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
4年度	479	504	513	492	552	574	612	571	407	502	560	640	6406
3年度	579	606	590	619	595	566	602	587	520	442	517	514	6764
介護予防通所介護 延べ人数													単位：人
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
4年度	62	71	67	65	67	68	41	40	29	27	21	33	591
3年度	114	108	111	110	98	109	85	81	73	58	54	61	1062
平均利用者数													単位：人
	4	5	6	7	8	28	10	11	12	1	2	3	合計
4年度	20.8	22.1	22.3	21.4	22.9	24.6	25.1	23.5	18.1	22.0	24.2	24.9	22.6

3年度	26.6	27.4	26.9	27.0	26.6	25.9	26.4	25.6	24.7	23.8	23.7	24.0	25.7
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

利用者介護度別延べ人数

単位：人

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4年度	73	518	2372	1303	1404	1002	325	6997
3年度	201	861	2602	865	1561	837	899	7862

3. 【訪問介護・指定第一号訪問介護事業】

令和4年度事業計画に対して事業状況は下記の通りである。

【重点報告】

- ・年度を通じ、様々な媒体を利用し登録ヘルパーの求人活動を行い2名の入職があったが、体調不良等の理由により3名の退職があった。
- ・10月より介護記録ソフトの新規導入を開始した。
- ・1月より特定事業所加算Ⅱの算定を開始した。
- ・現任研修の充実を図る為、サービス提供責任者や外部講師主体による現任研修ではなく、登録ヘルパー各自で学習した内容を基に資料作成及び発表するヘルパー参加型の研修を2月、3月で行った。
- ・新規利用者獲得の為、営業活動をしたが施設入所、逝去等で終了となるケースも多く利用者増にはつながらなかった。

【報告】

- ・ケアマネジャーとの連携を密にし、利用者の状態の報告、充実したサービスの提供に努め、利用者が住み慣れた場所で安定した生活が送られるよう支援した。
- ・サービスAの利用者はいなかった。

訪問介護・介護予防日常生活支援総合事業

単位：時間 単位：人

訪問介護年間実績表

		身体介護	身体生活	生活援助	合計	予防 訪問介護	訪問介護 合計	訪問介護 員数
4年度	時間	1674 : 40	2297 : 30	612 : 55	4585 : 05	960 : 30	5545 : 35	19
	延べ人数	5331				1264	6595	
3年度	時間	1735 : 00	2161 : 45	1019 : 45	4916 : 15	970 : 45	5887 : 00	20
	延べ人数	5508				833	6341	

訪問介護自費サービス

	人数	延べ回数	合計時間
4年度	8	16	33 : 20
3年度	8	65	95 : 00

4. 【茅ヶ崎市委託事業】

①茅ヶ崎市松林ケアセンターの管理運営

介護を必要とする在宅の高齢者及びその家族の福祉の増進を図ることを目的に利用者に対する入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練、介護方法の指導、生活等に関する相談及び助言その他の便宜の供与に関する業務、ケアセンターの施設及び付属設備の維持管理に関する業務を行った。

②高齢者住宅援助員派遣事業

前年度に引き続き茅ヶ崎市より委託を受け、月曜から金曜日（国民の祝日、1月1日～3日・12月29日～31日を除く）毎朝安否確認を中心に、入居している高齢者が快適に暮らせるよう、支援体制を整えた。また、茅ヶ崎市高齢福祉介護課・建築課や居宅介護支援事業所とも連携を密にし、適切な助言・相談が行えるよう連絡調整を行った。

	4年度	3年度	
生活指導・相談	52	40	隣人関係・体調不良・日常生活等
安否確認	2600	2378	外出、通院で留守が多いお宅があった
一時的家事援助	5	12	家電の調整、電球交換等
緊急時の対応 (時間外)	8	8	水連続使用、水不使用、ガス漏れ等の発報
(時間内)	2	8	体調不良で病院、救急搬送・緊急連絡先に報告
関係機関との調整	4	5	介護保険関係・地域包括支援センター・ボランティアセンター・建築課、高齢福祉介護課等
その他日常生活上 必要な援助	0	4	家事確認等
15世帯中 入居	17名（うち男性 3名 女性 14名）令和5年3月現在		
入居	入居	3件	退去 2件
年齢	最年長 92歳 最年少 73歳		
介護保険	要介護1（2名）要介護2（1名）		
研修	*令和4年度は新型コロナウイルスの影響によりLSAにかかわる研修はなかった。		
<ul style="list-style-type: none"> ・有料老人ホームへの入居などにより2世帯の退去と入居が年度内にあった。 ・コロナの影響が少なくなった令和5年2月に数年ぶりの住民会議を参集し開催できた。 ・いわゆる徘徊で警察対応が必要な県や、転倒による救急搬送の支援なども生じ、対応した。 ・緊急通報設備の老朽化に伴い、市建築課を中心に設備の入れ替えを相談。年度中に全館の緊急通報機器入れ替えが実施できた。 			

③転倒予防教室

毎月第3日曜日の午前10時から11時30分の間、入場参加可能者数の上限設定の導入による抽選方式の導入や、教室の運動プログラムの調整を実施しながらも休まず開催できた。平均23名ほど

の利用参加者だった。

コロナ禍でフレイルになっている高齢者が増えた印象が強かった。

④自主事業

・日曜介護相談

市役所や地域包括支援センターが休業の日曜日に、主任介護支援専門員、社会福祉士が介護相談等に対応できるよう毎月第一、第三、第五日曜日の開館日に実施。

・松林 FUN クラブ

認知症や様々な持病や特徴を持つ当事者とその家族、支援者らが気軽に集い交流できる場としてのいわゆる認知症カフェのような場として、毎月第一日曜日 10時から12時頃まで開催。認知症疾患医療センターでもある湘南東部総合病院や茅ヶ崎市保健所、高齢福祉介護課や神奈川県高齢福祉課、神奈川福祉サービス振興会、市内認知症カフェ団体の協力もいただいた。ボランティアバンドによるコンサートを年3回、茶話会、卓球、卓球バレーなどの交流活動を行えた。松林祭りに共に出店するなど、地域や団体を越えた協力ができる。

・松林祭り

地域住民との交流や異世代交流、社会福祉法人の地域貢献活動の一環として模擬店販売やボランティア団体の演武などの場として数年ぶりに企画開催した。当日茅ヶ崎市長に来賓挨拶を依頼しており、茅ヶ崎市長と神奈川県議会議員、茅ヶ崎市議会議員の参加、ご挨拶をいただくことができた。晴天にも恵まれ協力依頼した神奈川県立茅ヶ崎養護学校共有と生徒、保護者皆様らにより共生社会実現を目指す「共生プロレス」を紹介、実演いただき地域の他団体、様々な方々との共生社会実現に向け取り組む交流を図れた。

④市営松林住宅管理運営業務

内容	業者		
消防設備保守点検	藤沢総合設備	機器点検 7月	総合点検 1月
自動火災報知設備点検 放火防排煙設備点検 消火器維持点検		非常用放送設備点検 誘導用及び誘導標識点検 屋内消火栓設備点検	
電気保守点検	日本テクノ	毎月点検	定期点検 10月
自家用電気工作物 (最大 105KW 受電電圧 6,600V)			
非常通報設備保守点検	岩切通信工業	保守点検 3月	
主装置保守点検・呼び出し、センサー、表示、解錠等機能動作点検 事務室内主監視盤・住戸用設備保守点検・外観点検、機能点検 住戸インターホン、玄関子機・水道センサー・天井マイク、スピーカー 押しボタン (トイレ、浴室) 握りボタン (居室) 復旧ボタン 火災感知器 (煙感知器)、ガス感知器			
昇降機保守点検	三菱ビル テクノサービス	リモート点検毎月	油圧点検 3ヶ月毎
対象：三菱エレベーター			
自動ドア保守点検	神奈川ナブコ	定期点検 6月・12月	

対象：住宅玄関自動ドア		
受水槽保守点検	東海水源	清掃・水質検査3月
対象：市営松林住宅受水槽		

5. 実習生受け入れ

*令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策として来館者の制限などを実施していたことから実習生受け入れ事業に関しても年度を通じ制限した。

松林小学校2年生の社会科見学をコロナウイルス感染に配慮しながら、受け入れ態勢を整え、ごく短時間のみだったが施設見学、管内見学をしていただけたようにしたところ、小学2年生より感謝状を送ってくださった。

6. ボランティア活動

令和4年度は松林ケアセンター友の会の食器洗いの協力を得られた。この活動が開館以来、長年継続していることに対し、厚生労働大臣表彰にエントリー。見事その活動実績を讃えられ、厚生労働大臣表彰を受賞できた。

7. 【松林ケアセンター室内の清掃営繕業務委託事業】

松林ケアセンターの一部、主にトイレ部分の清掃を社会復帰訓練の為、職場実習として業務を行う茅ヶ崎ワーキングハウスに委託し実施した。

業務内容	業務日	時間		人員
清掃業務	月～金	16:15～17:15	1時間	1名

II・組織運営

1. 会議

1. 理事長に報告会	・月1回 第2土曜日 13:00～13:30		
2. 法人業務改善会議	・月1回 第4月曜日 16:00～17:30		
3. 職員会議	・月1回 第2土曜日 17:45～19:00		
4. 各部署会議	・居宅介護支援	朝のミーティング(毎日)	
	・通所介護	第3木曜日 ds 会議 (月1回) その他、必要時開催した。	
	・訪問介護	・訪問介護 第2土曜日ヘルパー会議 (月1回) その他、必要時開催した。	

2. 職員研修

1) 居宅介護支援 社会福祉法人慶寿会 ケアマネ研修会

毎月第2土曜日、松林ケアセンター2階教育室で小笹慶資理事長の指導のもとに基本的な医学知識を学ぶと共に、令和4年度はテーマを各事業所で考え研修会を実施した。

	内容	担当
4月	コロナの影響により中止	
5月	慶寿会の相談援助職に求められる人物像	小笹理事長
6月	介護保険第2号被保険者について、特定疾病事例	平和町介護 S, C
7月	胆嚢について	くるみ
8月	プライバシー保護、法令順守	平本
9月	感染症について	松林 C, C
10月	消費者契約法を理解しよう	あさひ
11月	静脈栄養	カトレアホーム
12月	コロナの影響により中止	
R4年 1月	高齢者の権利擁護、虐待対応	くるみ
2月	独居高齢者の支援、事例	平和町介護 S, C
3月	介護支援専門員に求められること 職業倫理	小笹理事長

2) 居宅介護支援 内部研修

ケアマネジメントテクニックの向上のため〔利用者事例紹介〕〔ミーティング様式の刷新〕〔オンライン会議システム操作方法〕などの研修を開催した。

3) 外部研修・勉強会

・神奈川県介護認定調査員研修・包括支援センター主催浜須賀地区松浪地区事例検討会・茅ヶ崎寒川町在宅医療介護連携推進事業 多職種連携研修会年4回・包括支援センター主催 小出地区事例検討会・ケアマネジャースキルアップ研修 認知症の症状とケアについて・外部法人施設見学研修 善光会訪問・他法人事業所と共催により事例検討会・茅ヶ崎歯科医師会、茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会共催 SEIQoL-DW 研修・神奈川県医師会主催認知症研修・茅ヶ崎市給付適正化研修・地域包括支援センター主任介護支援専門員部会主催社会的処方について研修・茅ヶ崎市自立型地域ケア個別会議事例検討会・主任介護支援専門員更新研修に参加し知識と技術の向上を図った。

通所介護・指定第一号通所事業 現任研修

	内容	講師
--	----	----

4月	介助技術 移乗について 事例検討 スキンケア	平本
5月	事故防止に向けて KYT 訓練 事例検討	平本
6月	接遇について 個人情報保護 プライバシー	平本
7月	新型コロナ感染拡大のため、動画視聴 →感染予防について	
8月	新型コロナ感染拡大のため、動画視聴→事故防止 リスク管理	
9月	非常災害時対応 緊急時対応	平本
10月	事故対応 リスク管理について 事例検討 避難訓練について 松林マニュアル確認	平本
11月	倫理、法令順守について レクリエーションの話合い	平本
12月	新型コロナ感染拡大、動画視聴 感染症対応について	
1月	虐待防止、身体拘束廃止についての研修 セルフチェックリスト 来年度の目標について(DS 目標) 来年度からのレクリエーションの運用について	平本
2月	認知症及び、認知症ケア	平本
3月	介護予防について	平本

訪問介護・指定第一号訪問事業 現任研修

	内容	講師
4月	『倫理及び法令遵守』『個人情報の保護』 『プライバシー保護』 コロナウイルス感染予防の為中止	資料 レポート提出
5月	『接遇』	日向 康郎
6月	『認知症及び認知症のケア』	日向 康郎
7月	『感染症・食中毒の予防及びまん延の防止』 『感染症及び食中毒の発生事例検討』	日向 康郎
8月	『事故の発生予防又は再発防止・事故の発生等の緊急時の対応』 コロナウイルス感染予防の為中止	資料 レポート提出
9月	『摂食・嚥下と食支援』 『口腔ケア』 コロナウイルス感染予防の為中止	資料 レポート提出
10月	『虐待』	日向 康郎
11月	『ハラスメント対策』	日向 康郎

12月	『緊急時に関する研修』 『介護職員の為の感染対策』 コロナウイルス感染予防の為中止	資料 レポート提出
1月	『福祉用具について』	日向 康郎
2月	『ホームヘルパーに求められる医療の知識』	ヘルパーグループ別 資料作成 学習発表
3月	『高齢者に多い疾病』	ヘルパーグループ別 資料作成 学習発表

茅ヶ崎市介護サービス事業者連絡協議会の訪問部会研修会にサービス提供責任者が出席し、パート・登録ヘルパーに伝達した。

3. 地域交流活動

市営茅ヶ崎市松林住宅住民と地区自治会と役員など選出、資源回収、ゴミステーションなどの取り決めなどを話し合い、実施。げんき村マルシェ、シェアハウスげんき村の方々と交流。茶龍麵開店に招待いただく。前述の松林祭りでは、想定していた以上の来客があり用意した商品が瞬く間に完売となるほどに。祭囃子保存会、フラ教室、車いすの方が施術するネイルサロン、認知症支援団体ら協働し交流できる場となった。

4. 広報

① ホームページ

年度を通じ様々な事業、各種表彰や、施設利用の様子や事業運営の様子、食事やおやつなどの活動報告の場として活用した。また求人、イベント告知などにも効果的に活用した。

② SNS

- ・インスタグラムを活用し写真や動画を世界中に向けて発信。海外の認知症の介護者の集いや、国内の介護施設、社会福祉法人や、個人、企業など共通のトピックスを持つ方との交流（フォロー）を行え、情報交換の場ともなった。年度末時点で2650を超えるフォロワー数となった。
- ・ツイッターは松林FUNクラブの開催案内や開館情報など、情報発信のツールとして活用した。

5. 施設設備の改善補修整備

- ・植栽剪定は造園業者に委託せず、営繕職員で対応し経費削減を図った。

・保守・衛生・健康管理

- (1) 事務所清掃・デイサービスフロアワックス 年1回
- (2) 空調機器保守 年1回
- (3) 厨房その他殺虫消毒 年3回
- (4) 職員健診 登録ヘルパー含む年1回
- (5) 厨房検便 毎月1回

- (6) インフルエンザ予防接種 希望者とその家族

- (7) 新型コロナワクチン接種の推奨と、副反応などに備えた勤務体制を敷いた。

令和4年度
事業報告

社会福祉法人 慶寿会
平和町介護サービスセンター

目 次

事業報告

(1) 居宅介護支援事業

(2) 訪問介護・日常生活支援総合事業

(3) 組織運営

1) ホームページ

2) 会議・定例会

3) 職員研修

(4) その他

1) 災害対策

(1)【居宅介護支援事業】

1. 24年度より特定事業所として、主任ケアマネジャーを筆頭に、算定要件である、24時間連絡体制確保、困難ケースを積極的に対応、年度を通じ各ケアマネジャーの実践力向上のための研修計画の立案・実施、毎週事業所内で「利用者に関する情報又はサービス提供にあたっての留意事項に関わる伝達等を目的とした会議」の開催、毎月特定事業所加算に係る基準の順守状況報告書の作成を行っている。

2. 在宅福祉の地域拠点となるべく、茅ヶ崎市高齢福祉介護課、地域包括支援センターなどとも連携、さらには地域医療機関、他の社会福祉資源と連携しつつ地域福祉の向上を図ると共に、地域との交流を深め、地域包括ケアシステムに向けた事業所としての特色と今後の社会福祉、医療情勢を見据え、要となるよう在宅介護力向上、中でも独居者の支援や認知症ケア・緩和ケア・看取りケアに対し積極的に支援を行い、支援力を身に着けるため各研修への参加やケアマネジメントや介護保険制度の理解 ～法の読み解き方・法令順守～ を主眼に、介護保険法と権限移譲に伴い神奈川県条例とを読み込み適切なケアマネジメントや、他事業種への理解も深めることで、公正で、法の理解に基づく‘エビデンスベースの’真に力のあるケアマネジメント事業所として研鑽したことによって個々のケアマネジャースタッフが、他者依存的思考ではなく、しっかりと現場に自ら足を運び、基本に立ち返りや、条例文などを見て法令順守に積極的になること、新たな情報を自ら取りに行く力、得た知識の実践力、情報発信力などを着実に身に着けることができた。

また、茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会幹事会や神奈川県介護支援専門員協会地域連携部会に管理者が参加し、市内及び県内の、介護支援専門員の活動をサポートやネットワークを構築し、茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会会員への情報提供のほか、会員相互間の情報交換のための活動を行った。

3. さらには医療的な知識の向上にも力を入れ、近医や訪問看護ステーション保健師や看護師、リハビリテーションの専門家である理学療法士などとも協働することで、医療職から見て、「任せて安心」なケアマネジャー事業所としての評価をいただくなど、現状維持ではなく日々向上を図った結果、社会福祉法人 慶寿会のケアマネジャーの評判を対外的にアピールすることができた。

*令和3年度途中より男性2名、女性2名の体制となった。標準担当件数を常勤換算数から151件を目標に活動。積極的に包括支援センターと連携を取り、特定事業所加算Ⅲ算定による逡減制適用運営基準減算にならない為に、令和4年度も地域包括支援センターからの急な依頼やターミナル期の利用者、中重度の利用者、困難事例へ対応するため、事業所内で担当調整を行い迅速に対応してきたが、数件相談が重なり対応が出来ないこともあったが、新規相談は継続しており、ケアマネジャー指定での相談件数も多くなっている。

令和3年度 月別担当件数

年 月	件数			請求額
	男	女	計	
R3/4	33	93	126	2,048,117
R3/5	33	93	126	2,039,420
R3/6	33	97	130	2,102,185
R3/7	35	98	133	2,150,120
R3/8	34	93	127	2,051,510
R3/9	32	96	128	2,072,995
R3/10	34	91	125	2,028,601
R3/11	28	87	115	1,876,978
R3/12	29	79	108	1,754,078
R4/1	29	75	104	1,681,716
R4/2	33	77	110	1,802,600
R4/3	36	75	111	1,827,754

計 1443 件 計画費請求金額 23,436,754 円

令和4年度月 別担当件数

年 月	件数			請求額
	男	女	計	
R4/4	40	83	123	2,048,017
R4/5	40	80	120	1,942,465
R4/6	45	84	129	2,089,851
R4/7	42	86	128	2,71,352
R4/8	43	85	128	2,075,267
R4/9	41	88	129	2,092,826
R4/10	41	87	128	2,071,822
R4/11	42	89	131	2,128,754
R4/12	44	87	131	2,126,144
R5/1	41	88	129	2,098,646
R5/2	42	83	125	2,040,675
R5/3	43	83	126	2,034,589

計 1527 件 計画費請求金額 24,820,408 円

令和3年度 要介護度別件数

要介護度	件数		
	男	女	計
要介護1	167	401	568
要介護2	98	247	345
要介護3	55	204	259
要介護4	43	169	212
要介護5	26	33	59
合計	389	1054	1443

令和4年度 要介護度別件数

要介護度	件数		
	男	女	計
要介護1	193	344	537
要介護2	143	276	419
要介護3	83	198	281
要介護4	49	149	198
要介護5	36	56	92
合計	504	1023	1527

原案作成委託料内訳

	R4.4月	R4.5月	R4.6月	R4.7月	R4.8月	R4.9月	R4.10月	R4.11月	R4.12月	R5.1月	R5.2月	R5.3月	年度合計
件数	23	23	23	22	22	22	22	20	20	19	19	20	255
市内	23	23	23	22	22	21	22	20	20	19	19	20	254
¥1087×件数	¥92,851	¥92,851	¥92,851	¥88,814	¥88,814	¥84,777	¥88,814	¥80,740	¥80,740	¥76,703	¥76,703	¥78,720	¥1,023,378
初回¥572			1			1					1		3
	¥0	¥0	¥6,722	¥0	¥0	¥6,722	¥0	¥0	¥0	¥0	¥6,722	¥0	¥20,142
市外(区市)													0
(区市)	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0
(区市)	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	0
合計	¥92,851	¥92,851	¥99,573	¥88,814	¥88,814	¥91,499	¥88,814	¥80,740	¥80,740	¥76,703	¥83,425	¥78,720	¥1,043,544

	R3.4月	R3.5月	R3.6月	R3.7月	R3.8月	R3.9月	R3.10月	R3.11月	R3.12月	R4.1月	R4.2月	R4.3月	年度合計
件数	27	25	25	26	25	25	25	25	25	25	24	24	301
市内	27	25	24	26	25	25	25	25	25	25	23	24	299
¥1087×件数	¥108,999	¥100,925	¥96,888	¥104,962	¥100,925	¥100,925	¥100,925	¥100,925	¥100,925	¥100,925	¥92,851	¥94,464	¥1,204,639
初回¥572			1								1		2
	¥0	¥0	¥6,722	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥6,722	¥0	¥13,428
市外(区市)													0
(区市)	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0
(区市)	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	0
合計	¥108,999	¥100,925	¥103,610	¥104,962	¥100,925	¥100,925	¥100,925	¥100,925	¥100,925	¥100,925	¥99,573	¥94,464	¥1,218,088

令和4年度は、年間を通して新規相談件数が多くあったが、現在の職員人数では対応しきれずお断りすることも多くなっていた。看取りケースの依頼も多く、短期間で終了となるケースが多かったが、医師、看護師など多職種協働で利用者、利用者家族を支え、最期まで自宅で過ごしたいという希望を叶えることができた。近隣の包括支援センターから虐待・困難ケースの依頼も多く、多問題家族への支援件数も年々多くなっている。

要支援・要介護1，2程度の軽度認定ながら認知症周辺症状が悪化されている方が区分変更申請後、要介護と認定されたのちに自宅以外での生活を選択される方も多くいた。

主な活動地域内に地域包括支援センターが3か所設置されており、近隣センターからの相談件数も年々増加する中、多問題家族のケースや困難ケースの相談も多くなっている。他事業所でも対応困難と断られたケースの相談にも可能な限り対応し、地域包括支援センターと日々の協力体制や連携により、迅速に対応している。今後も様々な内容の相談が増えることが予想される点などから、引き続き活動地域内地域包括支援センターとの密な協力、連携が必須であるとともに、利用者・家族への誠実な対応を心がけて行く必要がある。

介護保険認定調査

茅ヶ崎市より委託を受け月平均6件さらに他市区町村からの認定調査依頼も積極的に受け、調査を行った。

紹介数

令和4年度各ケアプラン立案におけるサービス利用の際の紹介数

・訪問介護

法人名	利用者数		
	人数	% (延)	% (実)
社会福祉法人 慶寿会	243	37	46
友	80	13	15
三子イ学館	72	11	14
茅ヶ崎ケアサービス	66	10	13
徳洲会	36	6	7

昨年同様に看取り・困難ケースの相談も多く毎日支援が必要な方の相談件数が増えている。自事業所の訪問介護だけでは対応しきれず、複数事業所の調整が必要となり複数事業所との連携が多くなった。より綿密な連絡を取り合うことで、状態変化の大きい看取りケースにも素早く適切な手厚い支援を行えた。事業所内の情報交換も十分に行うことで、担当者不在中でも支援が滞りなく行える、迅速かつ誠実な対応ができる事業所として近隣包括や関係サービス事業所と関係づくりが行え、地域の中核的存在事業所として頼られる立ち位置となっている。

・通所介護

神奈川総合企画	158	28	29
リフシア	147	26	27
湘南望青会	71	13	13
株式会社 ツクイ	51	9	10
社会福祉法人 慶寿会	32	6	6

事業所近隣の事業所への紹介が多くなっており、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定期的に足を運び利用者の利用中の様子を確認することが難しくなっているが、各事業所と情報交換を密に行うことで認知症や寝たきりの高齢者の急変時にも迅速な対応が出来るよう連携の構築が出来た。

(2) 【訪問介護・訪問型サービス（ホームヘルプサービス）】

平成 29 年 4 月より茅ヶ崎市日常生活支援総合事業が開始となり、事業経営に大きく影響が出ないよう、サービス提供時間を利用者ごとに適切に見直しを行い、特に認知症ケア・緩和ケア・看取りケアに注力し、中重度の要介護状態ではあっても、利用者が安心して快適な生活を送ることができるよう、ヘルパーの育成、介護技術向上、法令の理解と業務内容の確認等の徹底を行った。令和 4 年 3 月 31 日現在、常勤 1 名、パート 1 名、登録ヘルパー 16 名 合計 18 名で活動し、利用者の自立支援につながるサービスを行った。昨年度に引き続き、利用者・家族のニーズにこたえられるよう調整しているが、日曜日の支援、早朝や夕方の支援の依頼や保険外サービスで対応など相談件数は増えているが、一方でヘルパーの調整が難しく対応ができないケースも多くなってしまった。近隣の訪問介護事業所が閉鎖する等、他事業所同様に当事業所も人材確保が難しい状況が続き本年度の入職希望者は 0 となった。今後高齢者の増加が予想されるなか、介護が必要な状態となっても住み慣れた地域で暮らし続ける事が出来るようにするため人材確保が最重要課題であるとともに、入職当初から、法人の理念や方針、事業所の方針などを周知することで、離職率が低く、介護福祉士の増員なども図ることができるような取り組みが必要となっている。

R 4 年度介護度別国保請求金額内訳

	R 4/ 4	R 4/ 5	R 4/ 6	R 4/ 7	R 4/ 8	R 4/ 9	R 4/10	R 4/11	R 4/12	R 5/ 1	R 5/ 2	R 5/ 3
要支援 1	293,636	302,667	289,579	289,579	274,420	262,403	267,707	280,870	266,194	266,194	268,525	241,311
要支援 2	313,792	327,120	399,448	338,166	357,087	349,098	376,640	369,359	392,335	422,986	365,747	336,524
要介護 1	349,321	398,469	362,423	409,078	422,220	397,487	394,529	502,959	530,782	450,658	437,971	582,618
要介護 2	518,974	489,276	583,922	470,056	491,317	528,528	506,293	423,179	385,142	364,111	426,293	310,715
要介護 3	339,837	346,684	379,762	383,859	366,011	308,032	278,144	185,531	189,260	158,837	239,054	241,096
要介護 4	578,697	209,821	438,657	166,200	143,312	126,678	160,885	149,348	182,582	182,984	254,976	215,439
要介護 5	55,502	82,576	473,851	448,852	613,909	550,429	553,636	608,093	638,216	526,489	324,423	357,782
その他												
合計	2,449,758	2,166,618	2,927,642	2,505,780	2,668,276	2,522,655	2,537,834	2,619,339	2,564,611	2,372,258	2,316,989	2,286,485

月別ヘルパー稼働時間

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
4 年度	536	588	689	647	657	662	692	698	713	673	674	652	7881
3 年度	679	649	664	659	640	608	638	677	595	552	582	668	7611

サービス提供時間として 2 年度のサービス時間数 7799 時間から

4 年度は 7881 時間 と 270 時間増と稼働時間増加となった。

R4度【要介護度別述べ利用者数】

要介護度	性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	男女	2	2	2	2	3	2	2	3	3	3	3	3	30
	合計	17	18	17	17	16	16	16	16	15	15	15	12	190
	合計	19	20	19	19	19	18	18	19	18	18	18	15	220
要支援2	男女	3	2	2	2	1	1	1	1	3	3	4	3	26
	合計	9	9	12	11	13	13	13	14	15	14	14	14	151
	合計	12	11	14	13	14	14	14	15	18	17	18	17	177
要介護1	男女	3	3	2	3	3	4	5	5	6	5	4	4	47
	合計	8	10	10	11	10	10	11	11	11	11	11	12	126
	合計	11	13	12	14	13	14	16	16	17	16	15	16	173
要介護2	男女	4	4	4	3	3	3	3	3	2	3	3	3	38
	合計	7	7	8	9	7	8	9	8	10	9	10	8	100
	合計	11	11	12	12	10	11	12	11	12	12	13	11	138
要介護3	男女	7	7	7	1	1	1	1	2	3	3	4	3	20
	合計	7	7	8	8	9	7	7	6	6	6	8	6	65
	合計	7	7	8	8	9	7	7	6	6	6	8	6	85
要介護4	男女	3	2	2	3	3	2	1	1					17
	合計	7	7	7	5	3	3	3	3	4	5	5	5	57
	合計	10	9	9	8	6	5	4	4	4	5	5	5	74
要介護5	男女	1	2	2	2	1	1							9
	合計	2	1	1	2	3	3	3	3	4	3	2	2	29
	合計	3	3	3	4	4	4	3	3	4	3	2	2	38
総合計(人)	男女	16	15	15	16	15	14	13	15	17	17	18	16	187
	合計	57	59	62	62	60	59	61	59	62	60	61	56	718
	合計	73	74	77	78	75	73	74	74	79	77	79	72	905

年間要介護者利用者数を要介護度別に見てみると、要支援・要介護1・2の方が大多数を占めている。一方で要介護4・5認定利用者数は年々減少をしている。要支援利用者数が年間を通して相談が多い。これは事業実施地域内に多くの独居、高齢世帯の軽度認定者が過ごされ、生活支援を必要とされている方が多い実情もある。その方々への支援を行い、日々の生活を支えている現れである。ヘルパーの支援により住み慣れた我が家での生活が続けられるなど、長い期間当事業所で全面的にご支援させていただいている方で身体状況・認知機能低下の進行によりやむなくご自宅を離れる方がいる一方で、比較的早い段階で施設入所をされる方も年々増加している実情もある。

居宅介護支援への在宅看取りケースや長年の在宅介護で家族が疲弊してしまい、療養病院入院や施設入所を考えられていたが在宅での介護を選択し、要介護4・要介護5の方を自宅で支援を希望される相談も多くあったが、併設居宅介護支援事業所、地域包括支援センターを含む他居宅介護支援事業所からの新規相談があったがからの依頼にもヘルパーの調整が出来ず相談に迅速な対応が出来ないこともあり、現段階での課題が残る形となった。

自事業所、他居宅介護支援事業所からの受託件数増が年度通じ安定したサービス量を確保し、迅速な対応が出来るような対策が必要と考えている。一方で新規相談に即時に対応できるようなヘルパーの人員確保が難しく、慢性的な人員不足の状況が続いている。

長年活躍しているヘルパーの年齢も高くなっており、身体介護を担えるヘルパーも不足する一方で、身体介護・困難ケース・多問題家族支援ケースの相談も増えており、事業所全体と、個々のヘルパーの在宅介護力の向上が必要であり、引き続き重要課題として残る形となった。

*営業日

基本的に月曜日から土曜日までとしているが、必要性や利用者希望に応じ日曜日、大型連休、年末年始にも積極的に対応をした。

*営業時間 基本的に8:30~17:30に対応。必要性や利用者希望に応じ、日曜日や早朝7:15~や、緊急な依頼等のサービスも対応した。

(3) 【組織運営】

1) ホームページ

令和4年度1年間で閲覧者にとって目を引くコンテンツや、記事の更新に苦勞した点では反省材料が残る形となっている。事業所の日常の様子を記事として掲示するなどこまめに更新をすることで自事業所のアピールのみならず、「ここで働きたい」と人員確保に繋がるような記事や、閲覧者が今求めている内容や今後の国の動向や、新たな情報なども随時更新し掲載していくことで、有用なホームページとしての認知度向上を目指していく。

2) 会議

・職員会議

職員会議で扱う議題・内容を職員皆で話し合った結果、個々の事業別の稼働率や課題、経営状況、法人内他事業所の動静などを話し合い、職員一人一人が、経営意識と、法人内職員であるとの帰属意識の向上を図った。毎月第3金曜日 17時30分~18時30分に職員会議を行い、日々の業務見直しなどを行えている。

・居宅介護支援

毎朝8時30分から事業所内情報交換、ケース特記事項などについて会議を行った。また、特定事業所として、利用者に関する情報又はサービス提供にあたっての留意事項に関わる伝達等を目的とした会議を毎週金曜日、朝8時30分~9時まで開催し、テレワーク導入後からはWEBミーティングで開催をすることで情報・意見交換を行ってきた。

- a 現に抱える処遇困難ケースについての具体的な処遇方針
- b 過去に取り扱ったケースについての問題点及び改善方策
- c 地域における事業者や活用できる社会資源の状況
- d 保健医療及び福祉に関する諸制度
- e ケアマネジメントに関する技術
- f 利用者から苦情があった場合は、その内容及び改善方針
- g その他必要な事項 について検討した。

各担当者の抱える問題に対し、事業所全体の問題としてとらえ情報を共有し、主任介護支援専門員により、ケアマネジャーへのスーパーバイズや、管理者による情報提供や個々に得た知識や参加した研修報告、介護を支援する専門員の専門性をより高められるような会議を年度通じ日々行うことで、1,2名程度の他居宅介護支援事業所ではできない、多くの情報共有と意見交換により専門性を磨くことが出来た。コロナ禍で研修機会が限られているが、可能な限りzoomで参加できる研修や事務所内での情報共有により、コロナ前と変わらぬ知識の習得につとめた。

・訪問介護 2人のサービス提供責任者と管理者を合わせたミーティングを開催し、利用者の支援に関する事項、新たなサービスとケアプランについて、また事故を未然に防ぐ点などを検討した。

さらに、毎月第3土曜日10時から11時30分各利用者への対応等を目的としたヘルパー全員参加型の検討会議を地区コミュニティセンターなどで行ってきたが、コロナ渦での参集が難しく個人ワークを導入し、個別課題解決とヘルパーのスキルアップを行った。

3)研修

・居宅介護支援：開催される研修の多くがオンラインとなったが、定期的に内部、外部研修へ参加し研鑽した。

・居宅介護支援は、ケアマネジャー勉強会を松林ケアセンターにて毎月第2土曜日開催、参加し、法人内でテーマに沿った内容で専門的な医学知識等を学ぶ事が出来たと同時にプレゼンターを務めることで「対外発信力」を身に着けることが出来た

特定事業所として、各ケアマネジャーの実践力向上のための研修計画に基づき、「地域医療連携の推進」「地域包括ケアの取り組み」「認知症高齢者・精神疾患についての理解」「権利擁護成年後見制度についての知識を深める」という点を目標に、ケアプラン勉強会、地域医療福祉連携懇談会、虐待対応勉強会等へ参加した。知識や技術のみならず、他事業種、他事業所とのつながりなどケアマネジメントにとって最も大切なネットワークづくりの一端を担い、介護支援専門員部会・主任介護支援専門員の集まり「ミーナの会」に参加することで、平和町介護サービスセンターの認知度向上に寄与したとともに、職員の士気とケアマネジメント力の向上を図ることが出来たことは大変大きな成果であった。また、週1回ケアマネジャーミーティングをzoom会議では行うことで、オンライン研修への参加できる操作知識の習得につとめた。

・訪問介護は、制度に合わせた適切な対応への研修や今後の地域医療・福祉情勢を見据えた研修、法令順守、新たな社会資源、サービス等の理解ができるよう法人内外の専門職を講師に招き、毎月適切なテーマを考え研鑽し、事業所全体として、また個々のヘルパーの質の向上を図ってきた。コロナウイルス流行の状況に応じ各自で動画や書面での自己学習を実施し知識向上と感染拡大防止に努めた。

ヘルパー現任研修

4月	法令順守について
5月	介護技術の基本
6月	感染症・食中毒の予防及び蔓延防止に関する研修
7月	高齢者の口腔ケアについて
8月	ベッド上での排泄・更衣介助について（動画視聴）
9月	ベッド上での排泄・更衣介助について（実習）
10月	認知症サポーター養成講座
11月	介護現場で求められる接遇マナー（自己学習）
12月	訪問介護で行える服薬介助・確認の注意ポイント
1月	個人情報保護法について
2月	ヒヤリハット・事故報告と再発防止について
3月	訪問介護のヘルパーができること・できないこと

(4) 【 その他】

1) 災害対策

風水害：地域の社会資源や防災ハザードマップ、一時避難場所再確認としてのマンションの確認（茅ヶ崎市ホームページ まっぷ de ちがさき等）、茅ヶ崎メール配信サービスを各職員貸与の携帯電話へ登録など行い、いち早く情報を得られるようにした。また長期保存水、長期保存食品などを少しずつだが、備蓄と使用期限再確認、また事務所の大型ガラスウィンドーにガラス飛散防止フィルムの施工と書庫の転倒防止対策を継続して実施。利用者へは特に独居高齢者宅へ、ちがさき安心カプセルの配布や利用者基本情報（フェイスシート）を最新の状態にし続けることなど継続して行った。また、ほのぼのの利用者基本情報の登録時に「独居」「歩行困難」など緊急度を記載することで災害時、事務所全体で利用者対応ができるよう情報の整備を行なった。

感染症：コロナウィルスの流行に伴い利用者宅訪問の際に手指消毒用のアルコールの持参と、マスク・フェイスシールドの着用を徹底、体調の悪い職員の出勤の調整をすることで感染防止・拡大に努めた。

2) 労基対策

去る平成 25 年 8 月に藤沢労働基準監督署の監督官が来所にて実地調査があった。その中で、指摘のあった 3 点の是正事項について以下のように継続実施。

- ① 労基法第 15 条第 1 項 労働契約の締結に際し、労働者に対し、賃金、労働時間等の法定事項について登録ヘルパーも含む全職員に周知できるよう事務所内掲示板に掲示。
- ② 労基法第 106 条第 1 項 時間外労働に関する協定書を常時各作業場の見やすい場所に掲示し、または備え付けるなどの方法により労働者に周知していないこと。→36 協定書面の写しを事務所内に掲示して対応。
- ③ 安衛法第 12 条の 2 常時 10 人以上の労働者を使用しているため衛生推進者を選任が必要。
→登録ヘルパーも含み、10 人以上 50 人未満の事業所のため、管理者が安全衛生推進者を兼任することで対応した。

令和4年度
事業報告

社会福祉法人 慶寿会
デイサービスふる里

目 次

事業報告

1. 指定第1号通所事業及び地域密着型通所介護事業

- (1) 介護請求分析統計と年間要介護度別利用者数の推移
- (2) 平均要介護度
- (3) 月別ご利用人数および稼働率
- (4) 令和4年度の総括

2. 組織運営

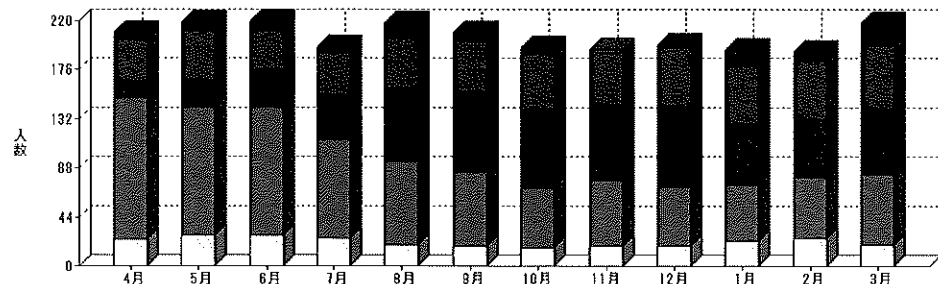
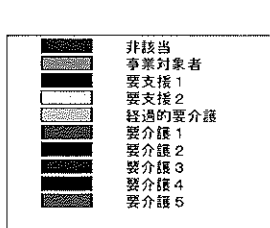
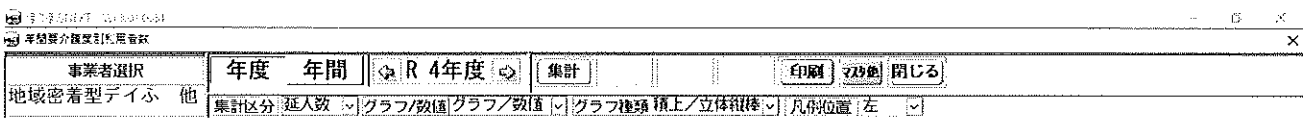
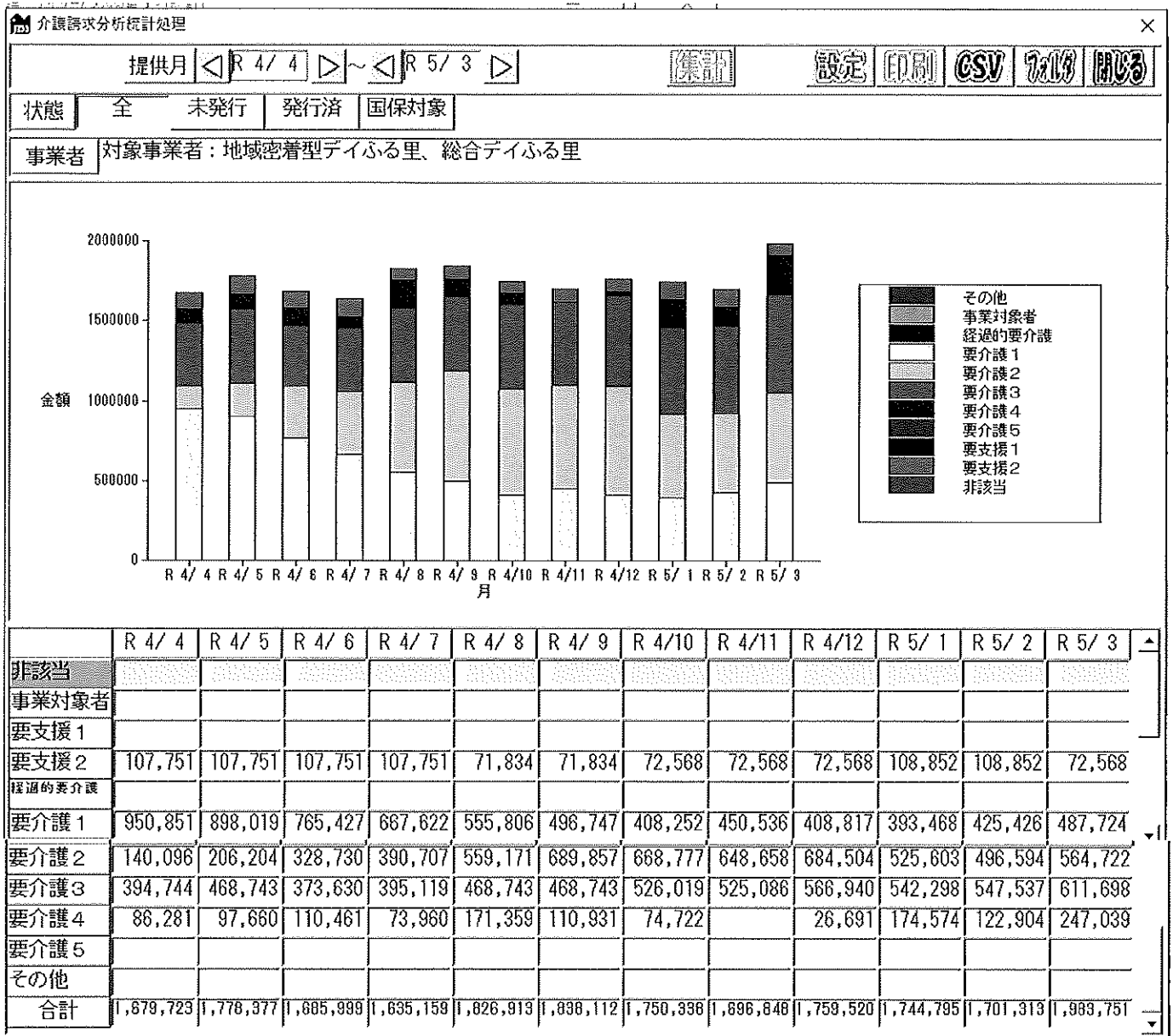
- (1) 職員構成・組織図
- (2) 会議・定例会
- (3) 職員研修

3. その他

- (1) 運営推進会議の開催
- (2) ボランティアの受け入れ状況

1. 指定第1号通所事業及び地域密着型通所事業

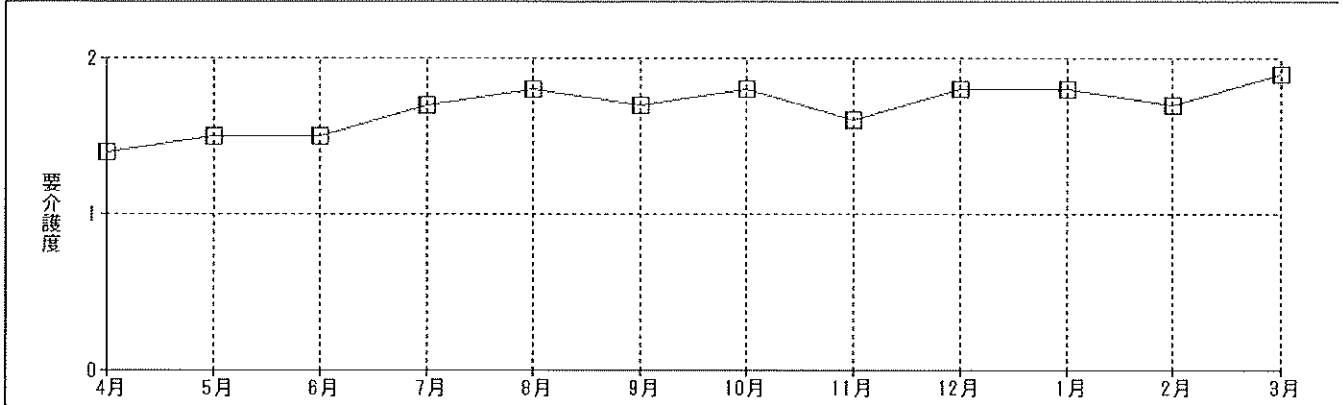
(1) 介護請求分析統計と年間要介護度別利用者数の推移



(2) 平均要介護度

平均要介護度

事業者選択	年度	年間	R 4年度	集計	印刷	その他	閉じる
地域密着型デイふ 他	集計区分	分類なし	グラフ/数値	グラフ/数値	グラフ種類	折れ線	凡例位置



項目	性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均要介護度	男	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.3	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.6
	女	1.5	1.6	1.6	1.8	1.9	1.8	1.8	1.5	1.7	1.8	1.6	1.8	1.7
	平均	1.4	1.5	1.5	1.7	1.8	1.7	1.8	1.6	1.8	1.8	1.7	1.9	1.7

(2) 月別ご利用人数および稼働率

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延人数(人)	200	190	212	209	194	200	183	210	210	190	195	230	202
稼働率(%)	91	90	96	95	88	91	87	95	100	95	98	100	94

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延人数(人)	210	219	220	197	218	210	196	194	199	194	193	218	202
稼働率(%)	100	100	100	94	95	95	93	88	95	97	97	95	96

(3) 令和4年度の総括

令和4年度は4月時点で介護1の方が大半を占めていたが、徐々に介護度が上がっている様子が推移からも伺える。

これについてはコロナ禍で認定調査を行わず1年の延長をされていた方々が、今回認定調査を受けられ介護度が見直されたことからと考えられる。

実際令和5年3月時点では介護1～3までの方の比率が、ほぼ同じ位に変化している。

平均介護度は1.7とお元気なご利用者様が多く、介護請求額は増加傾向にて令和4年度最終の3月は30万円程上がっている。

11年目の職員を筆頭に7年目が2名、5年目が2名、4年目が4名、2年目が1名、1年半が1名職員の定着化している。

それぞれご自分のライフスタイルに合った働きができることが、大きな要因と考えられる。

今年度山本圭子職員に続き、高橋景子職員が認知症介護実践者研修に参加。

また毎年職員が介護福祉士への挑戦が続いていたが、今年度は五十嵐珠美職員が取得。

これで介護職員10名のうち6名が介護福祉士、1名が社会福祉士の有資格者となる。

2022年度よりサービス提供体制加算Ⅱを算定させていただき、また2023年度から認知症加算・個別機能訓練加算Ⅰイ・科学的介護推進体制加算を算定予定。

今年度『かながわベスト介護セレクト20』に応募し、最終選考まで残るが残念ながら力及ばず。

ただしコロナ禍の中1度も感染者を出さず事業を継続できたのは、現職員の仕事に対する真摯な姿勢とご利用者様を大切に思う気持ちの深さからと考え、今後もふる里の良さを対外的にアピールできるよう更に努力していきたい。

2. 組織運営

(1) 会議・定例会

1. 法人業務改善会議	月1回 最終月曜日 16:00～
2. ふる里デイ会議	月1回 第1金曜日 17:30～
3. 朝・夕のミーティング	毎朝 8:30～/毎夕17:10～

(2) 職員研修

現任研修（職員による勉強会）

職員が講師を務め、出席者は報告書を提出する事で振り返り更に知識を深める

令和4年度の現任研修内容

4年 4月	非常災害時の対応について
5月	身体拘束排除の取り組みについて
6月	倫理及び法令順守について
7月	緊急時の対応について
8月	介護予防及び要介護度の進行予防について
9月	事故発生とその再発防止について
10月	介護現場におけるハラスメント対策について
11月	高齢者の虐待防止について
12月	感染症対策の基本について
5年 1月	高齢者医療の心得について
2月	プライバシー保護の取り組みについて
3月	認知症及び認知症のケアについて

外部研修

- ・認知症実践者研修 高橋 景子
- ・認知症介護基礎研修 小野寺 有里
- ・実務者研修 五十嵐 珠美
- ・メンター制度導入支援セミナー・介護現場のハラスメント対策研修
介護施設等防災リーダー養成研修等 松原 淑枝

3. その他

(1) 運営推進会議の開催

年2回行事と共に行っていた運営推進会議だが、コロナ感染拡大防止の為書面会議とする。

自治会長・民生委員・高齢介護福祉課・包括支援センター・近隣代表・ボランティア代表・ご家族様等、皆様よりご意見やご様子を賜り書面にて実施。

(2) ボランティアの受け入れ状況

現在50名の方のご登録あり。

コロナウイルス感染拡大によりここ数年ボランティアさんの受け入れを中止していたが、今年に入ってから少しずつ近隣の様子を見ながら再開を始めた。

コロナ禍の中、庭の剪定や水やりを行って下さるボランティアさんは開所当時から毎日欠かさずいらして下さり、ふる里にとってなくてはならない存在である。

令和4年度
事業報告

社会福祉法人 慶寿会
浜須賀地区地域包括支援センター
あさひ

目 次

1. 運営事業実施状況報告
2. 指定介護予防支援事業報告
3. 居宅介護支援事業所紹介（令和4年4月～令和5年3月）
4. 初期相談報告
 - （1）受付形態、相談者、対象者町名別
 - （2）受付分類、対応方法
5. 看護師業務報告
 - （1）保健師部会
 - （2）医療、介護、育児、産後の相談及び啓蒙活動
 - （3）令和4年度茅ヶ崎市短期集中通所型サービス事業報告
 - （4）認知症初期集中支援事業
6. 社会福祉士業務報告
 - （1）権利擁護業務
 - （2）社会福祉士部会
 - （3）その他
7. 主任介護支援専門員業務報告
 - （1）包括的・継続的ケアマネジメント
 - （2）主任介護支援専門員部会
8. 地域行事参加報告
9. 会議報告
10. 研修報告

1. 運営事業実施状況報告

令和4年度における相談者人数は昨年度に比べ若干増加した。ここ数年、相談者人数が増えている。特に、本人や介護支援専門員からの相談が増えた。医療機関や行政機関からの相談について、大きな変化は見られないが、昨年度に引き続き多く寄せられている。

直営ケアプラン件数は、指定介護予防支援、第1号介護予防支援事業ともに昨年度に比べて減っている。

1 相談者人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
本人	20	27	24	23	17	12	15	7	9	8	6	8	176
家族	31	20	22	17	21	27	18	31	16	16	22	18	259
自治会	1	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	5
民生・児童委員	0	0	5	6	1	1	2	0	2	0	4	3	24
市社協	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地区社協・地区ボラセン	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3
介護支援専門員	3	5	4	9	4	1	6	7	6	2	1	4	52
介護事業所	2	0	2	0	0	0	2	5	4	1	0	0	16
障がい者相談支援事業所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
医療機関	5	2	6	3	3	11	7	4	4	6	1	5	57
行政機関	3	1	3	4	1	0	1	1	0	3	0	0	17
友人	0	0	0	4	2	1	1	3	0	0	2	1	14
近隣住民	2	0	0	2	0	1	2	0	1	0	1	2	11
その他	2	0	6	0	3	2	0	0	1	1	1	0	16
計	70	56	74	68	54	56	54	59	43	37	38	42	651

2 相談内容

①総合相談支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
介護保険関係	50	29	36	32	30	39	35	42	26	29	28	31	407
認定申請代行	18	9	6	4	8	12	15	18	9	5	11	7	122
保健・医療	5	5	4	3	4	8	4	3	2	2	2	3	45
認知症関係	4	3	0	1	0	3	0	2	0	1	1	1	16
介護予防事業	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	3
地域の社会資源	1	2	0	3	4	1	3	4	2	1	1	2	24
生活支援・家族介護支援サービス	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	4
障がい	2	0	2	1	2	0	0	2	1	0	1	1	12
児童福祉	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
生活困窮	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
就労支援	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
ケアラー関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安否確認	1	0	0	2	0	1	1	1	0	0	1	3	10
介護離職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	13	19	29	28	8	8	16	8	10	8	5	2	154
計	72	55	76	69	49	58	62	60	42	43	38	42	666

②権利擁護業務

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
高齢者虐待	0	0	2	6	0	0	0	1	0	1	0	0	10
(実件数)	0	0	1	2	0	0	0	1	0	1	0	0	5
児童虐待	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(実件数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
成年後見制度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(実件数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消費生活相談	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
(実件数)	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
計	1	0	2	6	0	1	0	1	0	1	0	0	12

③包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	6	8	2	9	2	1	2	7	6	2	1	3	49
計	6	8	2	9	2	1	2	7	6	2	1	3	49

3 当該月の連携有無 有→1 無→0

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護支援専門員と連携	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
介護保険事業所と連携	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
医療機関と連携	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
自治会と連携	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	1	1	6
民生・児童委員	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
市社協と連携	1	0	1	0	0	1	1	1	1	1	0	1	8
地区社協・地区ボラセン	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
成年後見支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
行政機関(市担当、保健所、警察)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
他包括との連携	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	11
その他	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	11

4 担当者会議

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
あさひ	10	16	10	11	10	8	15	18	9	8	16	14	145
委託	7	8	5	2	0	4	7	1	1	1	0	3	39
困難事例	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	17	24	15	13	10	12	22	19	10	9	16	17	184

5 新予防給付

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
予防マネジメント(来所)	1	0	0	3	3	3	0	1	2	0	1	1	15
予防マネジメント(訪問)	46	35	55	53	31	54	50	42	63	44	42	3	518
予防マネジメント(電話)	46	90	63	69	77	51	64	63	62	72	65	2	724

6 国保連請求数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
国保請求数	110	117	118	121	120	122	118	121	125	109	126	126	1433

7 直営ケアプラン数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(件)
指定介護予防支援業務	75	80	79	84	83	85	84	86	88	79	88	88	999
第1号介護予防支援事業	35	37	39	37	37	37	34	35	37	30	38	38	434

2. 指定介護予防支援事業報告

令和3年度末、職員退職に伴って20件程度、委託に依頼。そのため令和4年度は委託合計数が多くなっている。年度末にかけて、直営件数が少しずつ増加している。

居宅介護支援事業所紹介件数について、昨年度より1.5倍となっている。新規申請や区分変更申請の結果、要介護となった方の対応を多く行った。

令和4年度浜須賀地区地域包括支援センターあさひ 指定介護予防支援実績件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
あさひ(直営)合計	110	117	118	121	120	122	118	121	125	109	126	126	1433	119
委託合計	64	63	66	61	60	61	60	61	57	55	55	57	720	60
総合計	174	180	184	182	180	183	178	182	182	164	181	183	2153	179

指定介護予防支援件数推移

	H28		H29		H30		H31		R2		R3	
	合計	平均	合計	平均	合計	平均	合計	平均	合計	平均	合計	平均
あさひ合計	1177	98	1229	102	1325	110	1306	109	1325	110	1588	132
委託合計	946	79	862	72	739	62	672	56	620	52	538	45
総合計	2123	177	2091	174	2064	172	1978	165	1945	162	2126	177

3. 居宅介護支援事業所紹介

居宅介護支援事業所に紹介するケースは以下を参照

- ・要介護認定を受けている方からの相談(紹介)
- ・介護保険の代行申請をして要介護の認定を受けた際(紹介)
- ・要介護の認定が予想される際(紹介)

令和4年度居宅介護支援事業所紹介一覧表

長岡病院介護支援センター	10
茅ヶ崎新北陵病院	4
居宅介護支援センター 松林	5
医療法人徳洲会 茅ヶ崎徳洲会駅前介護センター	5
特別養護老人ホーム湘南ベルサイド	2
社会福祉法人 麗寿会 ケアセンター茅ヶ崎元町	6
NPO法人 ワーカーズー心	4
ニッショウケアサービス	11
ハッピーハッピー茅ヶ崎	7
社会福祉法人 麗寿会 平和町介護サービスセンター	10
つるみね介護センター	1
セントケア茅ヶ崎	1
へいあんホームケア 茅ヶ崎	1
合同会社 在宅介護 りぼん	1
居宅介護支援センター 富士見	2
合同会社 ケアプラン ひざしの	2
居宅介護支援 だいち	3
居宅介護支援センター 湘南茅ヶ崎	4
相談センターまつなみ	6
居宅介護支援事業所 ぼぶり茅ヶ崎	4
訪問介護かえで 茅ヶ崎サービスセンター	2
ツクイ茅ヶ崎室田	1
ぐっどらいふ相談所	1
居宅介護支援センターまつぼっくり	8
湘南ホームナーシング居宅介護支援所	2
セントケア看護小規模多機能松が丘	2
医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会介護センター	1
やさしい手らいと辻堂居宅支援介護事業所	5
ケアプランたんぼぼ	5
湘南介護相談センター	2
にきっと湘南	9
ケアサポート湘南	1
合計	128

4. 初期相談報告

地域包括支援センターが初期相談として受けた合計件数。
 相談総数は令和3年度と比べて2割弱増えている。特に家族・親族からの相談が30件以上も多い結果となった。
 介護保険関連の相談が多く(後述)、そのため医療機関からの相談が毎月コンスタントに寄せられている。
 対象者の居住地区については人口の多い松が丘が相対的に多い。令和3年度と比較して、ひばりが丘に住む方に関する相談が3倍となった。

(1) 受付形態、相談者、対象者町名別

受付形態	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	件数
メール													0
外出先													0
電話	12	14	18	15	20	25	14	18	11	12	10	13	182
訪問		1						1					2
来所	2	3	5	5	4	4	9	8	9	4	9	6	68
合計	14	18	23	20	24	29	23	27	20	16	19	19	252

相談者の区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	件数
民生委員			3					1	1	1	2		8
医療機関	3	2	4	2	2	6	2	2	2	2		2	29
市役所	1	1		3	1			1		1			8
地域住民		1		1	2	2	1		1			1	9
CM	1		2		2	2			2		1	1	11
ボラセン			1			1		1					3
知人				3		2					2	1	8
包括		1	1			1	1	1				1	6
専門機関			1				1	1	1	1			5
本人		3	1	3	5	5	4	2	5	4	3	4	39
家族・親族	9	10	10	7	12	9	14	18	8	7	11	9	124
匿名・不明													2
合計	14	18	23	19	24	28	23	27	20	16	19	19	250

対象者町名別

平和町	30
松が丘	68
旭が丘	27
ひばりが丘	24
浜須賀	32
白浜町	11
菱沼海岸	22
市内・他地区	10
県内	2
県外	12
不明	14
合計	252

初期相談件数推移
 平成25年 163件 平成26年 231件 平成27年 153件
 平成28年 184件 平成29年 161件 平成30年 181件
 令和元年 221件 令和2年 203件 令和3年 216件

(2) 受付分類・対応方法

受付分類（内容）については、介護保険関係が毎年最も多いが、令和4年度はさらに多く寄せられた（昨年比60件増）
 「社会資源（サロン等含む）」「入所施設の情報提供」「その他」の件数は令和3年度より増えたが、「精神障がい・疾患」「センターで関わりの有無について」「行政機関からの情報提供」は減少した。

受付分類（複数選択）

内容	件数
社会資源(サロン等含む)	13
介護保険外制度について(障がい等)	1
ケアマネ・他包括からの情報提供	8
入所施設の情報提供	12
介護事業所からの情報提供	3
関係機関・住民からの情報提供	17
生活上の困りごとについて	34
行政機関からの情報提供	5
財産管理・遺産・遺言など	0
精神障がい・疾患	4
介護保険関係	145
介護保険申請代行	83
ケアマネ紹介	5
介護保険外	11
成年後見制度の活用	0
センターで関わりの有無について	1
虐待	2
困難事例	0
消費者被害	0
その他	33
合計	377

対応方法については、昨年度同様介護保険関連が最も多かった。
 件数としては1.4倍となった。
 「傾聴」「市へ連携」が減少した一方で、「医療機関との連携」が急増した。
 「社会資源の紹介」も増えており、コロナ禍が落ち着いてきた状況が反映されていると思われる。

対応方法（複数選択）

内容	件数
実態把握	56
ケアマネへ連携	16
ボランティアセンターと連携	3
傾聴	24
市へ連携	7
民生委員へ連携	4
介護保険各サービス情報提供	31
他地区包括と連携	11
担当包括の紹介	9
老人福祉施設情報提供	5
サロン関係情報提供	4
成年後見制度説明	0
医療機関との連携	36
社会資源の紹介	17
障がいサービス情報提供	0
介護保険制度説明	102
介護保険申請代行	85
ケアマネ紹介	7
介護保険外(自費)サービス情報提供	10
その他	34
合計	461

5. 看護師業務報告

(1) 地域包括支援センター保健師部会の計画に沿って事業を実施

1) 地域診断

- ①KDB を使った地域診断の手法の学び、茅ヶ崎市の課題を考える
- ②KDB、データ活用の理解
- ③茅ヶ崎市の地域診断について検討し、データから読み取れる課題を考える。

2) オーラルフレイル

- ①前年度作成した口腔資料（以下健口チェックシート）の周知、活用方法を保健師部会メンバーに伝達し、統一した活用方法の理解が出来る。
- ②市民向けに健口チェックシートを活用した講座を開催しオーラルフレイル関する意識の向上を促し、介護予防へとつなげる事が出来る。

1/11 市民講座「歯科からみた認知症予防」講師：ざくろ歯科 歯科医師：内間恭洋 Dr]

口腔体操実演担当

保健師部会：健口チェックシートの説明、口腔体操実演担当

前年度作成した健口チェックシートを地域サロンで紹介し、効果的な活用、方法を検証。

「健康チェックシートの活用法の紹介」共有しフィードバックを行う。

オーラルフレイル予防ツールの1つとして、湘南口体操を学ぶ

健康チェックシートを活用したオーラルフレイル講座開催。

3) 介護予防

- ・地域の支え合いの体制づくりの推進。
 - ・要支援者などに対する効率的・効果的な支援を目的とする事業の下、適切なケアマネジメント業務の実施。
- 随時ケアマネジメント業務の実施をした。

(2) 医療、介護、育児、産後の相談及び啓蒙活動

1) 家族介護教室

<目的>

- ①コロナ禍のストレスで不調をきたしやすい中、ヨガを体験する事で心身の不調を改善していく。
- ②ヨガの呼吸法、動きを学ぶ事で健康に対する意識が高まり、心身の不調を予防する事が出来る。
- ③日常生活、介護による腰痛リスクを学び、腰痛予防をはかる。

<テーマ>

～ヨガの力で身体をリセット～

楽ヨガで介護疲れ解消&腰痛予防を学ぶ

あさひ看護師によるストレッチ&脳活性化プログラム（シナプソロジー）、
腰痛の病態について基本的な知識や情報の提供

ヨガインストラクターによる楽ヨガ、シンキングボウル体験（椅子・マット）

<日時>

日にち：令和4年9月3日（土曜日）

時間：14：00～15：30（13：30 受付開始）

<感想：アンケートより>

- ・イメージトレーニング（シンキング？）がヨガを全く知らなかったのが難しかった
- ・楽しく体のことがわかりました。気にしていなかった事に気づきました。
- ・私は若い頃から何回かヨガとめぐり逢う事があり、好きな物の1つです。今は自由に動きませんが、今日のヨガはとてもステキだったと思います。今太極拳を30年近くやっています。
- ・お2人の先生ともお話しに学びがありました。日々の生活に生かせることが沢山。とても有難いです。
- ・シンキングボールの音がとてもよかったです。
- ・シンキングボールセラピーがリラックス出来てとてもスッキリして良かった。
- ・参考になりました。
- ・1度だけでなかなか続けることができないので、またお願いできればと思いました。
- ・ヨガの途中からシンキングに入ってから、自分の体ではない様な軽い無の力になった事がとても心地良かった。
- ・日常生活に取り入れていきます。ありがとうございました。
- ・シャヴァーサナがとても良かった。

2) サロン浜須賀（第2, 第4金曜日）

ママヨガ、エアロビクス、幼児リトミック、育児相談、妊婦相談、健康相談

3) 浜須賀会館祭り

10月26日（土）：健康相談、血圧測定、筋力測定、
骨密度UP体操、ロコモ体操実施。

4) 法人内ふる里

5月13日（金）、6月21日（火）

口腔体操、介護予防体操（ストレッチ・脳活性化プログラム・筋トレ・有酸素運動）

5) 平和会（毎月第4水曜日）

ミニストレッチ、健康相談、健康啓発、コロナ感染予防チラシ配布

6) お茶の間サトウ

6月13日健康ヨガストレッチ

7) パーキンソンの会

7月22日（金）当事者、家族の相談業務、助言

(3) 令和4年度茅ヶ崎市短期集中通所型サービス事業報告

令和4年度茅ヶ崎市短期集中通所型サービス参加者・会場

	第1クール	第2クール
参加数	2	3
会場	神奈中	神奈中

(4) 認知症初期集中支援事業

1) あさひカフェの開催（毎月1回）

ヨガストレッチ、脳活性化プログラム担当、
当事者、家族、支援者への相談業務

2) 認知症初期集中支援会議に参加し、各包括で抱えている困難事例について意見交換を行った。（毎月1回）

3) 「若年性認知症のつどい」に参加し、家族の思いや悩みを直接聞いた。

6. 社会福祉士業務報告

1) 権利擁護業務

① 居宅介護支援事業所、地域住民などからの成年後見制度に関する相談、支援、関係機関との連携

→随時、日常の相談業務として実施した。

② 行政、高齢者虐待対応関係機関との連携強化、高齢者虐待相談対応フローチャートの使用に即した支援

→随時、行政などと連携を図りつつ実施した。

③ 地域住民などへ消費者被害防止の情報提供及び啓発活動

→あさひ通信に消費者被害についての特集記事を載せ、情報提供・啓発活動を行った。

→サロンなどで消費生活センターからの啓発チラシなどを用いて情報提供を行った。

→(法人内のケアマネ研修会の場ではあるが、消費者契約法について詳細に解説する研修をケアマネジャーに対して行った。)

2) 令和4年度社会福祉士部会報告

令和4年度は「成年後見支援班」に所属して、勉強会への参加や包括職員向けの研修会を企画・実施した。

① 成年後見ネットワーク勉強会へ参加し部会への周知を図る。

→7月11日(木)、12月8日(木)全2回参加。

成年後見センター活動報告、市長申し立て件数、現状報告、事例検討(グループワークで役割を明確にしながら包括的な支援体制で課題解決を図る)、成年後見制度業務における意思決定支援について講義および意見交換。それぞれ部会で内容報告を行った。

②財産管理(後見、信託)についての幅広い知識の取得、情報交換を目的とした研修を包括職員向けに開催する。

→9月20日(火)家族信託勉強会開催

(講師:一般社団法人民事信託相談センター)

19名参加 13名アンケート回収 アンケート結果および質問事項を講師にフィードバック。

*なお、他の班主催による勉強会にも積極参加した。

3) その他

①平和町介護センターのヘルパーに対して、「個人情報保護法」についての研修を実施した。

7.主任介護支援専門員業務報告

1) 包括的・継続的ケアマネジメント

① 民生委員、地区社会福祉協議会、地区ボランティアセンター等との意見交換会、医療機関との連携。

→民生委員が半分以上交代になった為、挨拶と包括の役割について話をする。

地区社会福祉協議会・地区ボランティアセンター等には、定期的に定例会に参加した。

② 介護支援専門員同士のネットワーク構築支援

→包括さざなみと合同（ケアマネ座談会）

第1回→R4.5.24 「事例検討会」 会場：松浪コミセン

参加者：17名

第2回→R4.10.25「見守り機器事情」 会場：松浪コミセン

講師：福祉用具明 尾崎敏也店長

参加者：20名

第3回→R5.2.28 「ケアマネが知っておきたい病院の機能・役割」

講師：医療法人長谷川会 湘南ホスピタル 地域連携部長 小林文子氏

参加者 15名 会場：松浪コミセン

2) 令和4年度主任介護支援専門員部会報告

① 介護支援専門員同士のネットワーク構築支援

→R4.7.22（金）19：00～20：00 「ケアマネ交流会開催」 50名参加

2回に分け、ZOOMのブレイクアウトルーム活用にて交流を図った。

題材：「近況」「感染症が落ち着いたらやりたい事」

→R4.11.24（木）10：00～11：30 「指導事例検討会」 43名参加

事例提供により、主任介護支援専門員のスーパーバイザー・ファシリテーターとしてのスキルアップを図る実践の場を提供。

② 関係機関との連携体制構築支援（医療連携＋社会資源）

→R4.12.21（水）18：00～20：30 「社会的処方」 対面で開催 71名参加

講演：川崎市立井出病院 腫瘍内科/緩和ケア内科

一般社団法人プラスケア代表理事 西 智弘氏

事例発表：みやさきクリニック 宮崎 秀健 院長

フィンヴィレッジげんき村 後藤 光子 村長

「趣味の冊子」より 包括さざなみ 平國 祥子 主任ケアマネジャー

③ 介護支援専門員の実践力向上支援

→R5.2.15（水）14：00～16：00 「BCP作成研修」 45名参加

講義：茅ヶ崎市役所 高齢福祉介護課 太田 雅世氏

個人ワーク・グループワーク

8. 地域行事参加報告

センターが企画した催しを記載。また、担当地域の老人会、サロン、自治会、地区社会福祉協議会などからの参加要請があった場合は積極的に参加し対応した。

月	日にち	行事内容	対象者	
4	4	子ども食堂	地域住民	
	13	カフェ庵	地域住民	
	19	お茶の間サトウ	地域住民	
	23	まちのちから運営委員会	まちのちから協議会メンバー	
	24	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー	
	27	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員	
5	4	平和会	平和会自治会会員	
	10	民生委員児童委員協議会役員会	民生委員児童委員 役員	
	11	カフェ庵	地域住民	
	12	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員	
	13	サロン浜須賀	地域住民	
	25	平和会	平和会自治会会員	
	29	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー	
	30	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員	
6	2	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員	
	5	すこやか茶話会	地域住民	
	7	子ども食堂	地域住民	
	8	カフェ庵	地域住民	
	10	サロン浜須賀	地域住民	
	18	まちのちから運営委員会	まちのちから協議会メンバー	
	18	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員	
	21	お茶の間サトウ	地域住民	
	22	平和会	平和会自治会会員	
	24	サロン浜須賀	地域住民	
	26	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー	
	7	2	湘南かぞく食堂	地域住民
		8	サロン浜須賀	サポートはますかメンバー
13		カフェ庵	地域住民	
14		浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員	
23		まちのちから運営委員会	まちのちから協議会メンバー	
31		サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー	
8		4	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員
	10	カフェ庵	地域住民	
	26	サロン浜須賀	地域住民	
	28	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー	
	9	3	家族介護教室	地域住民
9		サロン浜須賀	地域住民	
10		敬老のつどい	地域住民	
14		カフェ庵	地域住民	
20		お茶の間サトウ	地域住民	
20		浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員	
24		ちがさきオレンジデイ (Zoom参加)	茅ヶ崎市民	
24		まちのちから運営委員会	まちのちから協議会メンバー	
25		サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー	
27		かんさんち傾聴ボランティア	地域住民	
28	平和会	平和会自治会会員		
10	12	カフェ庵	地域住民	
	13	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員	
	14	サロン浜須賀	地域住民	
	18	あさひカフェ	地域住民	
	22	浜須賀会館まつり	地域住民	
	30	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー	
	11	9	カフェ庵	地域住民
9		うみの会	認知症当事者・家族	
10		浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員	
11		サロン浜須賀	地域住民	

	12	認知症カフェ交流会	行政、認知症カフェ実施団体
	17	カフェ庵木木バザー	地域住民
	19	まちのちから運営委員会	まちのちから協議会メンバー
	19	かんさんち（こども食堂）	地域住民
	25	サロン浜須賀	地域住民
	27	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー
	29	あさひカフェ	地域住民
	30	平和会	平和会自治会会員
12	8	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員
	14	カフェ庵	地域住民
	21	平和会	平和会自治会会員
	22	あさひカフェ	地域住民
	23	かんさんちお楽しみバザー	地域住民
	23	サロン浜須賀	地域住民
	25	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー
1	7	新年のつどい	行政、地域役員等
	11	カフェ庵	地域住民
	12	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員
	13	サロン浜須賀	地域住民
	17	あさひカフェ	地域住民
	21	kitchenからからプレオープン	地域住民
	30	平和会	平和会自治会会員
	27	サロン浜須賀	地域住民
	28	市民のつどい	地域住民
	29	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー
2	7	民生委員役員会	民生委員児童委員 役員
	8	カフェ庵	地域住民
	10	サロン浜須賀	地域住民
	15	あさひカフェ	地域住民
	16	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員
	24	サロン浜須賀	地区住民
	26	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー
3	4	社協「茅ヶ崎博物館」同行	地区社会福祉協議会 役員
	8	カフェ庵	地域住民
	10	サロン浜須賀	地域住民
	22	あさひカフェ	地域住民
	18	まちのちから運営委員会	まちのちから協議会メンバー
	22	平和会	平和会自治会会員
	23	浜須賀地区社会福祉協議会役員会	浜須賀地区社会福祉協議会 役員
	24	サロン浜須賀	地域住民
	26	サポートはますか定例会	サポートはますかメンバー

9. 会議報告

職員会議、保健師部会、社会福祉士部会、主任介護支援専門員部会、コーディネーター配置事業地区支援ネットワーク会議、事業運営業務改善会議など、担当職員が参加した。

（コロナウィルス感染症の影響により定例開催されなかった会議あり）

会議名	回数
コーディネーター配置事業ネットワーク会議	11
職員会議	12
事業運営業務改善会議	12
管理責任者会議（書面含む）	3
保健師部会	12
社会福祉士部会	12
主任介護支援専門員部会	12
包括戦略会議	3
認知症初期集中チーム員会議	12
認知症地域支援推進連絡会	7
ケアマネ座談会	3

地域ケア会議（市主催含む）	4
ケアマネ交流会	1
福祉政策課意見交換会	1
理念継承会議	2
民生委員との意見交換会	2
オレンジデイ	1
合計	110

10. 研修報告

保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員・介護支援専門員が各々関連する研修に参加した。地域包括支援センターあさひで独自に行っている勉強会はその時に話題や課題になっているものを取り上げ開催し、資質向上を目指している。

	研修名	回数
法人内	あさひ勉強会	2
	ケアマネ勉強会	11
	合計	13
法人外	主任介護支援専門員更新研修	8
	人材育成研修	4
	初期集中支援チーム員研修	3
	認知症疾患センター研修	3
	多職種連携研修	3
	ステップアップ講座	3
	事例検討会	2
	地域包括支援センター職員養成研修	3
	キャラバンメイト研修会	2
	適正化研修	2
	成年後見ネットワーク勉強会	2
	面接技術研修	1
	当事者の強みを活かす相談対応の勉強会	2
	葉山ハートセンターオンライン医学講座	1
	市社協研修	1
	社会福祉部会研修	2
	アサーション研修	1
	認知症地域支援推進員研修	1
	リフォーム会社説明会	1
	後見書式説明会	1
	カスハラ研修	1
	回想法基礎講座	1
	消費者被害研修	1
	社会的処方研修	1
	辻堂包括研修	1
	市民歯科講座	1
	平和町ヘルパー研修会	1
管理責任者会委託説明会	1	
ケアプランデータ連携システム説明会	1	
東海大学病院認知症疾患セミナー	1	
オーラルフレイル研修	1	
平和町介護と勉強会	3	
合計	60	

令和4年度
事業報告

社会福祉法人 慶寿会
松林地区地域包括支援センター
くるみ

目 次

1. 運営事業実施状況報告
2. 介護予防支援および介護予防マネジメント事業報告
3. 初期相談報告書
 - (1) 受付分類
 - (2) 対応方法
4. 保健師・看護師業務報告
 - (1) 包括保健師部会事業計画活動
 - (2) 医療、介護の相談及び啓蒙活動
 - (3) 家族介護教室
 - (4) すこやか支援プログラム事業
 - (5) 認知症初期集中支援事業
 - (6) 認知症サポーター養成講座
5. 社会福祉士業務報告
 - (1) 高齢者虐待予防委員会
 - (2) 成年後見制度の活用促進
 - (3) 勉強会
 - (4) 消費者被害防止・地域住民・福祉関係職員に対する啓発活動及びネットワークの構築
 - (5) 権利擁護関連：相談対応状況
6. 主任介護支援専門員業務報告
 - (1) 主任介護支援専門員部会
 - (2) 介護支援専門員に対する後方支援 ネットワーク構築
 - (3) 介護予防支援及び介護予防マネジメント
7. 地域行事参加・活動報告
8. 会議報告
9. 研修報告

1. 運営事業実施状況報告

介護保険関係の相談内容が約半分以上を占めている。相談者人数は前年度と比較し246件減少
相談者は本人・家族が中心。相談者としては民生委員が微増。医療機関からは増加している。
連携件数については、カウント方法を再確認したことで、3分の1程度になっている。
重層的支援体制整備事業が開始されたが、大きな数字の変化は見られていない。

令和4年度 運営事業実施状況報告(リピーター含む)

1 基本チェックリストの実地状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
65～74歳	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
75歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 相談者の属性

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
高齢者・第2号被保険者	150	110	128	134	126	138	97	100	98	137	93	97	1,408
障がい児・者(疑いを含む)	7	11	8	8	6	1	3	9	6	7	11	1	78
児童(18歳未満)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子育て世代	1	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	6
外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	5	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	8
計	163	122	136	143	135	140	101	109	105	144	104	98	1,500

3 相談者人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
本人	60	43	38	53	40	68	36	34	42	59	36	41	550
家族	74	52	74	75	77	75	53	68	61	87	62	65	823
自治会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民生・児童委員	3	6	8	5	5	6	1	4	2	3	5	7	55
市社協	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	4
地区社協・地区ボラセ	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	5
介護支援専門員	21	12	13	14	8	8	5	8	5	0	11	5	110
介護事業所	0	0	7	6	13	3	2	0	3	0	3	1	38
障がい者相談支援事業所	3	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8
医療機関	18	6	13	14	6	1	10	5	4	15	14	14	120
行政機関	6	6	2	2	8	1	3	1	4	7	2	1	43
友人	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3
近隣住民	3	0	2	0	1	2	1	1	1	0	0	0	11
その他	1	3	3	3	1	1	1	2	1	0	1	0	17
計	189	134	162	175	161	166	113	123	123	171	134	136	1,787

4 相談内容

①総合相談支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
介護保険関係	118	73	109	106	109	102	78	87	82	107	81	92	1,144
うち認定申請代行	30	10	29	14	19	27	18	17	22	27	19	26	258
保健・医療	32	15	29	14	15	22	14	18	12	12	8	13	204
うち認知症関係	19	9	12	7	6	10	7	5	3	2	3	6	89
介護予防事業	7	4	1	2	10	3	0	0	0	0	0	9	36
社会資源	18	17	13	9	14	17	6	10	0	11	4	10	129
生活支援・家族介護支援サービス	1	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	6
障がい	8	5	3	4	2	1	2	5	1	6	7	2	46
児童福祉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生活困窮	0	4	2	4	1	2	0	0	3	1	2	4	23

就労支援	2	2	1	0	0	0	0	0	2	1	1	0	9
ケアラー関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安否確認	1	5	3	4	2	0	2	0	1	0	0	1	19
介護離職	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	11	17	10	16	9	20	15	11	12	13	5	2	141
計	198	143	172	159	165	167	117	131	113	151	108	134	1,758

②権利擁護業務

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
高齢者虐待	2	9	0	3	0	1	2	4	1	0	2	2	26
児童虐待	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
成年後見制度	7	1	1	0	0	1	0	0	0	0	5	0	15
消費生活相談	1	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	5
計	10	11	1	3	0	3	4	4	1	0	7	2	46
高齢者虐待実件数	1	3	0	2	0	1	1	3	1	0	1	1	(実ケース数)
児童虐待実件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(実ケース数)
成年後見制度実件数	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	(実ケース数)
消費生活相談実件数	1	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	(実ケース数)

③包括的・継続的ケアマネジメント支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (計)
包括的・継続的ケアマネジメント支援	3	6	4	3	1	4	1	0	1	0	1	2	26

5 連携（連絡・調整等）件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
介護支援専門員	33	34	24	19	14	29	10	20	17	15	22	12	249
介護保険事業所	23	19	27	17	25	19	13	20	10	12	17	22	224
医療機関	16	7	14	22	9	7	9	9	11	9	12	8	133
自治会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
民生・児童委員	2	3	6	5	8	4	4	4	1	3	3	5	48
市社協	1	3	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	9
地区社協・地区ボラセン	2	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	6
成年後見支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
行政機関（市担当課・保健所・警察等）	18	14	5	9	7	8	3	8	4	9	12	9	106
他包括	3	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	7
その他	2	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	1	8
計	100	81	78	72	64	70	41	65	45	51	66	58	791

6 地域包括支援センターによる支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
事例検討会、相談会での指導・助言	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
ケアプランを通じた研修会での指導・助言	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ケアマネジャーからのケアプランに対する相談対応	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
センター職員からのケアプランに対する個別指導・助言	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ケアプランの現状把握のための、ケアマネジャーとの同行訪問	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
その他	2	3	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	8
計	3	3	2	2	0	1	0	0	1	0	1	1	14

7 介護支援専門員に対する指導助言内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
事例検討会、相談会での指導・助言	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入退院時の医療連携	1	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
家族支援	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3

関係機関との連携	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3
多様なサービスの活用	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
その他	0	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	6
計	3	3	6	2	1	3	1	0	0	0	0	1	20

8 担当者会議

担当者会議	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
くるみ	15	11	24	14	21	25	21	21	22	19	15	22	230
委託	2	10	7	5	6	2	6	5	1	0	3	2	49
困難事例	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
計	19	21	32	19	27	28	27	26	23	19	18	24	283

9 介護予防支援および介護予防マネジメント関連

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
来所	1	1	3	6	1	3	2	2	3	2	1	5	30
訪問	92	123	142	105	117	103	123	126	118	112	141	147	1,449
電話	172	172	190	164	196	223	211	200	230	190	224	230	2,402
契約 (くるみ)	8	8	10	2	11	11	8	10	7	10	3	9	97
委託 (市内)	0	5	2	1	1	2	0	5	3	0	2	1	22
委託 (市外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

10 国保連請求数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
国保連請求数	272	277	287	290	285	286	288	286	300	290	292	311	3,464

11 委託依頼数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (件)
委託依頼数	2	8	4	3	7	5	8	9	5	4	10	11	76

2. 介護予防支援および介護予防マネジメント事業報告

居宅介護支援事業所で委託対応してもらえない状況は続いている。
 直営と委託の担当件数の割合は直営が65% 委託が35%
 直営担当件数は増加。委託件数は減少となっている。
 要支援から要介護になるケースが生じる一方で、
 新規ケースが増加するため、月に5～10ケースの
 入れ替わりはある。今後も直営件数は増加していく見込み。

介護予防支援および介護予防マネジメント 件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
直営 要支援1	71	73	82	81	80	84	89	93	101	101	100	107	1,062	89
直営 要支援2	65	69	75	77	78	80	82	83	89	87	88	98	971	81
委託 要支援1	64	61	58	57	55	51	51	49	48	43	45	48	630	53
委託 要支援2	72	74	72	75	72	71	66	61	62	59	59	58	801	67
直営合計	136	142	157	158	158	164	171	176	190	188	188	205	2,033	169
委託合計	136	135	130	132	127	122	117	110	110	102	104	106	1,431	119
総合計	272	277	287	290	285	286	288	286	300	290	292	311	3,464	289

前年度からの推移

	R3		R4	
	合計	平均	合計	平均
直営 要支援1	731	61	1,062	89
直営 要支援2	688	57	971	81
委託 要支援1	694	58	630	53
委託 要支援2	1,030	86	801	67
直営合計	1,419	118	2,033	169
委託合計	1,724	144	1,431	119
総合計	3,143	250	3,464	289

3. 初期相談報告

初期相談合計件数（新規）になる。

対応方法は、電話、来所が多く、相談者に関しては家族・親族が多い。

次いで本人となっている。

相談件数は前年度より38件増加。民生委員からの相談は2倍近くになっている。

対象者町名別では、高齢者数が多い高田、赤羽根が高い数値を示す。

令和4年度 松林地区地域包括支援センターくるみ 初期相談報告書

受付形態

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（件）
市役所にて	1												1
その他			1		2	2	1					2	8
電話	44	36	43	34	32	48	30	30	30	37	39	32	435
訪問	3	2		3	2	1	1	1		1		1	15
来所	7	11	12	9	5	7	9	13	9	9	8	12	111
メール													0
合計	55	49	56	46	41	58	41	44	39	47	47	47	561

相談者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（件）
ケアマネ	10	9		6	3	12	3	6	5	3	4	2	63
民生委員	2	4	9	4	2	5	1	4	4	1	2	4	42
ボラセン			1		1								2
知人		2	1	1	2			1				1	8
市役所		6		1	2		2		1	1	2	1	16
医療機関	7	4	7	4	1	2	4	7	1	5	8	4	54
包括	1	1	4	1	3	1	2		2	1	1		17
匿名			1			1	1						3
その他	4		1	2	1	2	2	1	1	1	2		17
本人	6	7	4	13	6	10	2	8	4	10	6	9	85
家族・親族	25	16	27	14	20	24	22	17	21	25	22	26	259
関係委員※			1			1	2						4
合計	55	49	56	46	41	58	41	44	39	47	47	47	570

※サービス事業所・市社協等

対象者性別

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（件）
男性	23	19	28	19	21	27	25	17	21	19	15	21	255
女性	32	31	25	27	20	31	18	28	18	29	33	26	318
不明	2	2	4	2	2	3			1				16
合計	57	52	57	48	43	61	43	45	40	48	48	47	589

対象者町名別

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（件）
赤羽根	13	11	13	9	10	14	6	12	12	5	9	12	126
甘沼	2	2			2	1	1	2	2	1	2		15
小桜町							4					1	5
小和田	1	1	1	3	3	2		1				1	13
松林	8	4	12	7	4	6	4	4	8	12	6	4	79
高田	11	6	12	15	10	8	12	13	3	10	16	15	131
菱沼	6	8	4	2	5	8	5	5	6	11	6	4	70
本村	1	2	2			2			1	4		2	14
室田	8	7	7	4	4	10	5	6	3	1	4	6	65
市内	2	3	1	1	1		2		2		3	1	16
県内	1		1	3	1		1	1	1				9
県外					1		1						2
不明	2	5	3	2		7			1	3	1	1	25
合計	55	49	56	46	41	58	41	44	39	47	47	47	570

令和4年度 初期相談 受付分類・対応方法

介護保険制度に関わる内容が全体の約7割を占める。必然的に、ケアの内容に関わる事項や介護保険代行申請へ繋がっている。
相談者から介護保険申請に至った後のケアマネジャー紹介やそれに伴う制度の説明が多くなっている。
生活困窮に関わる相談は前年度より倍増している。

(1) 受付分類 (複数選択)

内容	前期	後期	計
状況把握	57	69	126
地域の社会資源	29	18	47
相続・遺言名等	1	0	1
介護保険外制度について (障がい等)	6	8	14
介護保険関係	195	198	393
介護保険代行申請(更新申請含む)	119	117	236
ケアマネ紹介	25	22	47
介護保険外サービス	8	15	23
成年後見制度	3	0	3
他包括からケース引き継ぎ	3	4	7
虐待関連	3	4	7
困難事例	12	1	13
消費者被害	0	0	0
生活困窮	14	5	19
認知症関係	18	11	29
その他 (注1)	32	30	62
合計	525	502	1027

(注1) 家族間トラブル 近所トラブル等 緊急での相談

介護保険制度説明、代行申請、実態把握が上位を占めている。
相談はあるが認定申請に至らないこともあり。
代行申請件数や他項目については、前年とほぼ同数。

(2) 対応方法 (複数選択)

内容	前期	後期	計
実態把握	76	70	146
介護保険代行申請 (更新申請含む)	119	117	236
介護保険制度説明	128	133	261
ケアマネ紹介	25	22	47
認知症関係情報提供	7	2	9
老人福祉施設情報提供	3	3	6
成年後見制度説明	3	0	3
ケアマネへ連携	52	36	88
市へ連携	12	8	20
民生委員へ連携	16	13	29
デイサービス情報提供	9	8	17
福祉用具事業者情報提供	15	18	33
サロン関係情報提供	0	0	0
担当包括の紹介	6	6	12
傾聴	11	13	24
介護保険外 (自費) サービス情報提供	10	24	34
医療機関へ連携	10	21	31
その他 (注2)	39	26	65
合計	541	520	1061

(注2) カンファレンス参加、認知症対応方法
他包括との情報共有 (連携) など
制度の狭間のケースでは、受診同行、市役所手続き付添い
家族関係の背景でくるみが介入せざるを得ないケースあり。

4. 保健師・看護師業務報告

(1) 包括保健師部会事業計画活動

1) オーラルフレイルについて

- ・健口チェックシート・お口の体操を活用し、実施
- ・令和5年1月「お口の健康と認知症」の講座を開催
住民向けに健口意識の向上につながった

2) 認知症施策活動

- ・令和4年9月24日 茅ヶ崎オレンジ Day
準備への協力、当日は悪天候の為不参加
- ・認知症地域推進員連絡会への出席

(2) 医療、介護の相談及び啓蒙活動

1) 松林地区（長寿会）昼食会

コロナウィルスの影響で中止

2) 各サロンへの参加についても、コロナウィルスの影響で開催サロンが少なく 参加はできなかった。代表の方へのくるみ通信の配布は数か所行った。

3) 月1回松林公民館と合同開催「松林ミニ赤とんぼクラブ」実施

4) 精神疾患の疑いがある方へ、家族および本人に対して保健所と一緒に面接、相談に 対応した。

(3) 家族介護教室

ベネッセにご協力いただき、老人ホームの選び方や紹介を行なった

(4) すこやか支援プログラム事業

第1教室・第2教室それぞれ1名の実績（お出かけ機能アップ教室）あり。

(5) 認知症初期集中支援事業

「認知症初期集中支援チーム員会議」への出席および、1事例提出
認知症独居の方への消費者被害、成年後見制度の活用などの視点で
事例提出を行い支援方針検討し、対応した。

(6) 認知症サポーター養成講座

R4年9月6日 松林公民館にて民生委員対象に実施

R5年3月15日 赤羽根中学校1年生対象に包括青空の協力の元実施

5. 社会福祉士業務報告

* 社会福祉士部会での主な活動

月に1回、全地域包括センター社会福祉士による会議を開催し、
下記(1)～(4)の4つの委員会に分かれ、専門的な活動を通して専門性の向上を図る
ことや各包括の取り組み等を共有する場としている。

地域包括支援センターくるみは「勉強会班」担当であった。

(1) 高齢者虐待対応

(2) 成年後見制度の活用促進

(3) 勉強会

①R4年9月20日 「家族信託」の勉強会を開催

講師 一般社団法人民事信託相談センター

②成年後見ネットワーク勉強会への参加

R4年7月11日・12月8日

(4) 消費者被害防止・地域住民・福祉関係職員に対する啓発活動及びネットワークの構築

(5) くるみ権利擁護関連：相談対応状況

*件数は、「運営事業実施状況報告」参照

1) 高齢者虐待

・被虐待者が認知症症状あり、子から母親への身体的、心理的虐待の疑い
ケースは3件あった。

うちケアマネジャーからの相談が2件であり、他1件は市役所からの情報提供
となる。

ケアマネジャー、市役所と情報共有を図り、適宜対応継続し、抑止・悪化防止
に繋げている。緊急性高く分離を行ったケースはない。

2) 成年後見制度

・市町村申し立てから制度活用へ繋いだケースは1件であった。

前年度からの継続ケースであり、認知症症状により、金銭管理ができていない
こと、病識もない為、健康管理の点からも支援者の介入が必要とり、市町村申
し立てに至り、弁護士が後見人となった。

3) 消費者被害

・経営しているアパートの外壁塗装について、施行業者と契約されたが、不安に
なり解約希望が生じ、クーリングオフ手続きの支援を行った。

・消費者センターとの連携を都度行いながら対応を行った。

6. 主任介護支援専門員業務報告

(1) 主任介護支援専門員部会

- 毎月1回、第2、第3木曜日か金曜日に、市役所会議室若しくは医療センターで開催。
- 各包括支援センターの活動報告、情報共有、研修報告等毎月行ない、奇数月はそれに加え勉強会を行なった。

(2) 介護支援専門員に対する後方支援 ネットワーク構築

○事例検討会

- ・7/28 (木) 13時半～15時 包括青空と共催
市営小和田住宅外複合施設 会議室にて参集で行なった。
事例提出者2名、主催2名を含め 合計17名参加

○「茅ヶ崎市介護予防・日常生活支援総合事業について」研修

- ・9/27 (火) 午前10時～11時30分 包括青空と共催
市営小和田住宅外複合施設 会議室にて参集で行なった。
茅ヶ崎市外で介護予防ケアマネジメント業務を受託している
居宅介護支援事業所の介護支援専門員向けの研修
茅ヶ崎市の介護予防・日常生活総合事業について改めて説明を行ない、
他市のやり方の発表及び、情報交換等行なった。

○自立支援型地域ケア個別会議及び事例検討会

- ・12/12 (月) 14時～16時 市役所本庁舎4階会議室2・3
全3回の1回目へ出席

1) 事例検討会テーマ (司会を担当)

「独居高齢者が安全に自宅で暮らすための支援～施設から自宅へ～」

2) 個別会議検討テーマ

「情緒不安定な独居者への支援」

両検討テーマに沿い、臨床心理士、理学療法士、相談支援専門員、
訪問介護責任者、福祉用具相談員等、各専門家が助言者として参加。

○主任介護支援専門員部会 地域共生社会研修チーム主催研修

- ・12/21 (木) 18時30分～20時30分
茅ヶ崎市本庁舎4階会議室4, 5 (参加者は講師、主催を含め 計71名)
タイトル:「社会的処方って何？」
講師:西 智弘氏 (一般社団法人プラスケア代表理事)
事例発表者:宮崎 秀健医師 (みやさきクリニック院長)

平國 祥子氏（松浪地区地域包括支援センターさざなみ
管理者、主任介護支援専門員）
後藤 光子氏（ファインヴィレッジげんき村村長）

○ケアマネージャーからの相談件数・内容

・「運営事業実施状況報告」を参照

(3) 介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント

○介護予防支援及び介護予防マネジメント件数

・2「介護予防支援および介護予防マネジメント事業報告」参照

7. 地域行事参加・活動報告

サロンや地域行事は少しずつだが再開し始めている。
 くるみ独自事業（ミニ赤とんぼクラブ）は規模を縮小して開催できた。
 認知症サポーター養成講座は2回実施（民生委員・赤羽根中学校生徒）

令和4年度 行事参加・活動報告

月	日にち	行事内容	対象者	参加人数
4	27	ミニ赤とんぼクラブ	地域住民	15名
5	25	ミニ赤とんぼクラブ	地域住民	15名
6	22	ミニ赤とんぼクラブ	地域住民	15名
	22	あかしあなごみ会	菱沼在住高齢者等	10名
	23	あじの会	高田ニュータウン在住高齢者等	10名
7	14	ちがさきステップアップ講座	地域住民（サポーター養成講座受講者）	40名
	15	ちがさきステップアップ講座	地域住民（サポーター養成講座受講者）	40名
	25	室田はなそう会	室田在住高齢者等	10名
	27	ミニ赤とんぼクラブ	地域住民	15名
	28	あじの会	高田ニュータウン在住高齢者等	10名
8	3	家族介護教室	地域住民（家族介護教室出席者）	16名
	24	ミニ赤とんぼクラブ	地域住民	15名
	29	室田はなそう会	室田在住高齢者等	10名
9	6	認知症サポーター養成講座	民生委員	25名
	28	ミニ赤とんぼクラブ	地域住民	15名
10	20	ミニ赤とんぼクラブ	地域住民	15名
	29	松林公民館祭り実行委員会	松林公民館祭り参加委員	40名
11	17	ミニ赤とんぼクラブ	地域住民	15名
	19	松林公民館祭り実行委員会	松林公民館祭り参加委員	40名
	24	あじの会	高田ニュータウン在住高齢者等	10名
12	12	歌体操教室ねぼし	地域住民	15名
	15	ミニ赤とんぼクラブ	地域住民	15名
	22	あさひ 認知症カフェ	地域住民	10名
1	19	ミニ赤とんぼクラブ	地域住民	15名
	25	認知症サポーター養成講座打ち合わせ	赤羽根中学校	5名
	31	室田はなそう会	室田在住高齢者等	10名
2	16	ミニ赤とんぼクラブ	地域住民	15名
3	2	ちがさきステップアップ講座	地域住民（サポーター養成講座受講者）	40名
	15	認知症サポーター養成講座	赤羽根中学校	114名
	16	ミニ赤とんぼクラブ	地域住民	15名
	18	松林公民館まつり	地域住民	多数
	20	あじの会	高田ニュータウン在住高齢者等	10名

8. 会議報告

法人業務改善会議は法人定例会議であり管理者が参加している。
 運営推進会議は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面会議として実施されている。
 地域ケア会議は年2回開催し、個別事例検討及び移動手段をテーマとした。
 開催手段として、WEB会議の他、参集による会議も再開し始めている。

令和4年度 会議報告集計

会議名	前期	後期	計（回数）
職員会議	6	6	12
保健師部会	6	6	12
社会福祉士部会	6	6	12
主任ケアマネ部会	6	6	12
いこいの郷運営推進会議	0	0	0
くすの木はる運営推進会議	0	0	0
リフシア松林運営推進会議	0	0	0
ミント高田運営推進会議	0	0	0
ウルトラリハ運営推進会議	0	0	0
レコードブック運営推進会議	0	0	0
成年後見支援ネットワーク勉強会	1	0	1
地域ネットワーク会議（パインナッツ）	0	0	0
民児協定例会	3	3	6
認知症初期集中支援チーム員会議	2	2	4
認知症地域支援推進員連絡会	5	3	8
事業計画ヒアリング	0	2	2

運営評価ヒアリング	1	0	1
地域ケア会議	1	1	2
自立支援型地域ケア個別会議	0	1	1
管理責任者会議	3	2	5
法人業務改善会議	6	6	12
若年性認知症のつどい うみの会	3	1	4
ネットワーク会議	6	5	11
まちちから協議会 福祉部会	2	3	5
合計	57	53	110

9. 研修報告

WEB開催が多かったが、参集による受講も再開している。

令和4年度 研修報告集計

法人内外	研修名	前期	後期	計 (回数)
法人内	ケアマネ勉強会	5	5	10
	くるみ勉強会	1	0	1
	合計	6	5	11
法人外	福祉職の為の成年後見制度講座	1	0	1
	家族介護教室 (伊勢原市地域包括)	1	0	1
	人材育成研修	1	3	4
	社会福祉士部会 勉強班研修	1	0	1
	事例検討会 (居宅ケアマネ向け)	1	0	1
	多職種医療研修	1	1	2
	介護支援専門員多職種連携研修	1	0	1
	難病講演会	1	0	1
	若年性認知症支援コーディネーター	1	0	1
	市外居宅向け研修	1	0	1
	茅ヶ崎・寒川薬剤師会在宅委員会	1	0	1
	令和4年度 第1回 介護給付適正化研修	0	1	1
	令和4年度 第2回 地域医療支援研修会	0	1	1
	主CM部会研修「社会的処方」って何?	0	1	1
	お口の健康と認知症	0	1	1
	主CM更新研修	0	7	7
	主CM研修	0	9	9
	認知症キャラバンメイト研修	0	1	1
	B C P 作成研修	0	1	1
	社会福祉士部会 虐待予防研修	0	1	1
合計	11	27	38	